

中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会
国語ワーキンググループ（第9回）
議事次第

1. 日時：令和8年5月11日（月）18：00～20：00
2. 場所：文部科学省東館5F2会議室
※ウェブ会議と対面による会議を組み合わせた方式
3. 議題：
 - （1）「知識及び技能」の整理等について
 - （2）高等学校国語科の科目の在り方について
 - （3）その他
4. 配付資料：

進行資料	国語ワーキンググループ（第9回）の流れ（イメージ）
資料1	第9回国語ワーキンググループの検討事項について

1 開会

18:00～18:01	進行上の確認等
-------------	---------

2 「知識及び技能」の整理等について

18:01～18:15	事務局より説明
-------------	---------

18:15～19:00	意見交換
-------------	------

3 高等学校国語科の科目の在り方について

19:00～19:15	事務局より説明
-------------	---------

19:15～19:59	意見交換
-------------	------

4 閉会

19:59～20:00	次回以降についての連絡等
-------------	--------------

第9回国語ワーキンググループの議題

議題 (1)

「知識及び技能」の整理等について

議題 (2)

高等学校国語科の科目の在り方について

議題
(1)

「知識及び技能」の整理等について

1. 教育課程企画特別部会の議論を踏まえた検討事項

(1) 国語科を通じて育成する資質・能力のあり方・示し方

- 「学びに向かう力・人間性等」や「見方・考え方」の新しい整理を踏まえた目標の見直し
- 中核的な概念等に基づく内容の一層の構造化や、その過程における必要に応じた精選
- 国語科の特質を踏まえた、表形式を活用した目標・内容の分かりやすい表現への見直し

(2) 国語科の指導と評価の改善・充実のあり方

- デジタル学習基盤の活用や情報活用能力の育成強化を前提とした、国語科における「主体的・対話的で深い学び」の一層の充実を図るための方策の具体化
- 資質・能力の育成にあたって、効果的かつ過度な負担が生じにくい国語科の評価への見直し

(3) 誰一人取り残さず資質・能力を育成する柔軟な教育課程のあり方

- 義務教育における調整授業時数制度や、高等学校における科目の柔軟な組み替えを可能とする仕組みを前提とした場合に考えられる教育課程・学習指導の工夫や、教育課程の柔軟化に伴って生じる課題を見越したうえでの運用方策

(4) 学習の基盤となる資質・能力（言語能力、情報活用能力）のあり方

- 国語科の特質を踏まえた言語能力、情報活用能力向上のあり方と教科等横断的に読む力を育成するカリキュラム・マネジメントにおける国語科の役割の検討（総則・評価部会との連携）

議論の前提

- 第5回WGでは、高次の資質・能力のうち、「知識及び技能の統合的な理解」については、〔知識及び技能〕の二つの側面に即して示した（**参考資料1**）。
- 各側面に位置付ける内容は、それぞれの「知識及び技能の統合的な理解」につながる性質のものとして整理することが求められる。そこで、現行の〔知識及び技能〕の事項として示している内容を踏まえつつ、**その性質や必要性を検討し、どちらの側面に位置付けるかを整理する必要がある**。
- また、側面①の「知識及び技能の統合的な理解」につながる知識・技能と考えられる内容であっても、現行では〔知識及び技能〕の事項としては示さず、複数の領域の〔思考力、判断力、表現力等〕の事項の中に共通する要素として含まれているものもある。これらの内容については、**側面①の事項として位置付けて整理することを検討する必要があるのではないか**。
- なお、第7回WGでは、形成的評価と総括的評価の工夫により学習改善や指導改善を進めていくという考え方を示した。この考え方を実際の指導と評価に生かし、児童生徒の資質・能力を高めていくためには、**〔知識及び技能〕の内容を二つの側面との関係から再整理していくことが重要になる**。

具体的論点

- 「知識及び技能の統合的な理解」で目指す高次の資質・能力を着実に身に付けられるようにするため、現行の〔知識及び技能〕の内容を、次の【側面①】【側面②】のうち、いずれの性質に主に重点を置くかによって、再整理してはどうか。その上で、【側面①】の内容を「(1) 各領域の学習の過程で生かし深める事項（仮称）」、【側面②】の内容を「(2) 各領域の学習を支え文化的な知識や態度、教養として深める事項（仮称）」として位置付けてはどうか。

※ただし、この整理は相互に排他的な分類を行うものではなく、各事項の主たる性質や指導・評価の重点を明確にするための整理であることに留意。（**補足イメージ1-1、1-2**）

【側面①】：思考・判断・表現の学習活動を通して、知識を繰り返し運用・統合することで、深い理解と定着を図る性質
→側面①に整理する内容を、「(1)各領域の学習の過程で生かし深める事項(仮称)」として位置付ける

【側面②】：文化的な知識や態度、教養を身に付けることの意義を踏まえ、そのものの習得を目的とした学習を通して、各領域の学習の質を高めるとともに、自己の形成、社会生活の向上、文化の創造と継承の実現を図る性質
→側面②に整理する内容を、「(2)各領域の学習を支え文化的な知識や態度、教養として深める事項(仮称)」として位置付ける

- その際、学習の効果が高まると考えられる場合は、以下のような考え方による整理を行ってはどうか。
※個別の内容の具体的な位置付け方や示し方は、今後、告示文を検討する中で整理

【分割・統合】

現行の〔知識及び技能〕の事項について、その性質に応じて分割又は統合することが有効なものは、複数の事項に分けて示したり、一つの事項としてまとめたりする。（**補足イメージ2-1、2-2**）

【系統化】

現行では特定の校種・科目のみに示している〔知識及び技能〕の事項であっても、発達段階に応じて複数の領域の学習過程で繰り返し活用することが有効なものは、小・中・高等学校を通じた系統性を整理して位置付け直す。（**補足イメージ3**）

【明確化】

現行では〔知識及び技能〕の事項として明示していないものの、複数の領域の〔思考力、判断力、表現力等〕の事項に共通して含まれる内容のうち、それらの思考・判断・表現の前提となり、繰り返し活用することが有効な知識・技能を明確化し、〔知識及び技能〕の事項として系統的に位置付ける。（**補足イメージ4-1、4-2、4-3**）

- なお、児童生徒の学びを深める授業づくりに役立てるためには、それぞれの内容を互いに独立した個別のものとして示すのではなく、その性質に応じた関係性や小中高の系統性が分かるように示すことが重要である。そこで、上記のような整理を経て位置付ける内容については、「事項のまとめり（仮称）」を設けて分類し、構造的に示してはどうか。（**補足イメージ5、6**）

【現行】小・中学校段階

(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

知識・技能の内容（概略）

- ・（言葉の働き）a:言語が共通にもつ言葉の働き
- ・（話し言葉と書き言葉）b:文字と音声との対応や語の認識、c:分かりやすく明瞭な話し方、d:書き言葉のきまり
- ・（漢字）e:漢字の読みと書き
- ・（語彙）f:語句の量を増す、語句についての理解を深める
- ・（文や文章）g:単語の類別、単語の活用、助詞や助動詞などの働き、h:文の成分の順序や照応など文の構成、i:話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴
- ・（言葉遣い）j:敬語の働き、相手や場に応じた言葉遣い
- ・（表現の技法）k:表現の技法の種類とその特徴
- ・（音読、朗読）l:音読や朗読（小学校のみ）

(2) 情報の扱い方に関する事項

知識・技能の内容（概略）

- ・（情報と情報との関係）m:情報と情報との様々な関係
- ・（情報の整理）n:情報の整理

(3) 我が国の言語文化に関する事項

知識・技能の内容（概略）

- ・（伝統的な言語文化）o:音読するなどして言葉の響きや伝統的な言語文化の世界に親しむ、p:ことわざや慣用句、故事成語など、q:古典に表れたものの見方や考え方、r:古典の一節などの引用
- ・（言葉の由来や変化）s:漢字の構成、t:時代による言葉の違い、地域や世代による言葉の違い
- ・（書写）u:姿勢、筆記具の持ち方、点画や一文字の書き方、筆順、文字の集まりの書き方、楷書や行書の書き方、文字言語の豊かさに触れながら効果的に文字を書く
- ・（読書）v:読書の意義や効用など

【改善イメージ】小・中学校段階

(1) 各領域の学習の過程で生かし深める事項（仮称）

知識・技能の内容（概略）

- ・c:分かりやすく明瞭な話し方
- ・f:文脈の中での語句の意味理解、文脈に応じた語句の選択
- ・h:文の成分の順序や照応など文の構成
- ・i:話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴
- ・k:表現の技法の種類とその特徴
- ・l:音読や朗読（小学校のみ）
- ・m:情報と情報との関係
- ・n:引用の仕方や効果、r:古典の一節などの引用
- ・n:情報の信頼性の確かめ方
- ・n:情報の整理の仕方
- ・w:段落の構造
- ・x:場面の設定
- ・y:情景や心情、行動などの描写の仕方
- ・z:図表などの用い方や効果

(2) 各領域の学習を支え文化的な知識や態度、教養として深める事項（仮称）

知識・技能の内容（概略）

- ・a:言語が共通にもつ言葉の働き
- ・b:文字と音声との対応や語の認識、d:書き言葉のきまり
- ・e:漢字の読みと書き、s:漢字の構成
- ・f:語句同士の関係を理解し、語彙を豊かにする、p:ことわざや慣用句、故事成語など
- ・g:単語の類別、単語の活用、助詞や助動詞などの働き
- ・j:敬語の働き、相手や場に応じた言葉遣い
- ・o:音読するなどして言葉の響きや伝統的な言語文化の世界に親しむ
- ・q:古典に表れたものの見方や考え方
- ・t:時代による言葉の違い、地域や世代による言葉の違い
- ・u:姿勢、筆記具の持ち方、点画や一文字の書き方、筆順、文字の集まりの書き方、楷書や行書の書き方、文字言語の豊かさに触れながら効果的に文字を書く
- ・v:選書の仕方、自らの興味・関心等に応じた自立的な読書

黒字：その性質に応じて分類（一部分割・統合あり）／青字：系統化／赤字：明確化／下線：整理の考え方を第5回WGで検討

※個別の内容の具体的な位置付け方や示し方は、今後、告示文を検討する中で整理する。

【現行】高等学校（必履修）段階

(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項の概要

知識・技能の内容（概略）

- ・（言葉の働き）A:言語が共通にもつ言葉の働き
- ・（話し言葉と書き言葉）B:話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色
- ・（漢字）C:漢字の読みと書き
- ・（語彙）D:語句の量を増す、語句についての理解を深める
- ・（文や文章）E:文の効果的な組立て方、F:話、文章の構成や特徴
- ・（言葉遣い）G:敬語を含めた広く相手や場に応じた表現や言葉遣い
- ・（表現の技法）H:表現の技法の種類とその特徴

(2) 情報の扱い方に関する事項の概要

知識・技能の内容（概略）

- ・（情報と情報との関係）I:情報と情報との様々な関係
- ・（情報の整理）J:情報の整理やそのための手段

(3) 我が国の言語文化に関する事項

知識・技能の内容（概略）

- ・（伝統的な言語文化）K:我が国の文化と外国の文化との関係、L:我が国の文化・言語文化の特質、M:古典に親しむための作品の歴史的・文化的背景、N:古典に親しむための文語のきまりや訓読、古典特有の表現
- ・（言葉の由来や変化）O:時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化、P:歴史的な文体の変化
- ・（読書）Q:読書の意義や効用など

【改善イメージ】高等学校（必履修）段階

(1) 各領域の学習の過程で生かし深める事項（仮称）

知識・技能の内容（概略）

- ・D:文脈の中での語句の意味理解、文脈に応じた語句の選択
- ・E:文の効果的な組立て方
- ・F:話、文章の構成や特徴
- ・H:表現の技法の種類とその特徴
- ・I:情報と情報との様々な関係
- ・J:情報の整理
- ・J:情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方
- ・J:引用の仕方や効果
- ・M:文語のきまりや訓読、古典特有の表現
- ・R:段落の構造
- ・S:場面の設定
- ・T:情景や心情、行動などの描写の仕方
- ・U:図表などの用い方や効果

(2) 各領域の学習を支え文化的な知識や態度、教養として深める事項（仮称）

知識・技能の内容（概略）

- ・A:言語が共通にもつ言葉の働き
- ・B:話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色
- ・C:漢字の読みと書き
- ・D:語句同士の関係を理解し、語彙を豊かにする
- ・G:敬語を含めた広く相手や場に応じた表現や言葉遣い
- ・K:我が国の文化と外国の文化との関係
- ・L:我が国の文化・言語文化の特質
- ・M:作品の歴史的・文化的背景
- ・MN:伝統的な言語文化に親しむ
- ・O:時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化
- ・P:歴史的な文体の変化
- ・Q:選書の仕方、自らの興味・関心等に応じた自立的な読書

黒字：その性質に応じて分類（一部分割・統合あり）／青字：系統化／赤字：明確化／下線：整理の考え方を第5回WGで検討

※個別の内容の具体的な位置付け方や示し方は、今後、告示文を検討する中で整理する。

【知識及び技能】の整理の考え方～【分割・統合】パターンの例①（分割）～ 補足イメージ2-1

【分割・統合】パターン：現行の【知識及び技能】の性質に応じて分割又は統合し、位置付け直すもの

【例①（分割）】g:単語の類別、単語の活用、助詞や助動詞などの働き、h:文の成分の順序や照応など文の構成、i:話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴 /E:文の効果的な組立て方、F:話、文章の構成や特徴

現行では、上記の内容を「文や文章」の事項としてひとまとまりで示しているが、各要素の性質に応じて【側面①】又は【側面②】に整理することで学習の効果が高まると考えられる。当該事項や「解説」が示している内容に留意しながら、発達段階に応じた知識・技能の内容として分割し、小・中・高等学校を通じた系統性を整理して位置付け直してはどうか。

【現行】〈関連する現行の【知識及び技能】の事項〉

小学校	中学校	高等学校
<p>【第1学年及び第2学年】 (1)カ 文の中における主語と述語との関係に気付くこと。</p> <p>【第3学年及び第4学年】 (1)カ 主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。</p> <p>【第5学年及び第6学年】 (1)カ 文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。</p>	<p>【第1学年】 (1)エ 単語の類別について理解するとともに、指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めること。</p> <p>【第2学年】 (1)オ 単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解するとともに、話や文章の構成や展開について理解を深めること。</p> <p>【第3学年】 (1)ウ 話や文章の種類とその特徴について理解を深めること。</p>	<p>【現代の国語】 (1)オ 文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解すること。</p> <p>【言語文化】 (1)エ 文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解すること。</p> <p>【論理国語】 (1)ウ 文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めること。 (1)エ 文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めること。</p> <p>【文学国語】 (1)ウ 文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めること。</p> <p>【国語表現】 (1)エ 実用的な文章などの種類や特徴、構成や展開の仕方などについて理解を深めること。</p> <p>【古典探究】 (1)イ 古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めること。 (1)ウ 古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めること。</p>

分割

【改善イメージ】知識・技能の内容（要素の例）

次のように内容を分割し、発達段階に応じて系統的に整理することが考えられる。

g:単語の類別、単語の活用、助詞や助動詞などの働き（小・中学校）

→我が国の言語の体系性の理解を深め、各領域の学習を支える知識・技能として、側面②に位置付ける。

h:文の成分の順序や照応など文の構成/E:文の効果的な組立て方

→話や文章の理解を深めたり、自らの表現の効果を工夫したりする際などに働かせるための知識・技能として、側面①に位置付ける。

i:話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴/F:話、文章の構成や特徴

→話や文章の構造を把握したり、伝える内容をどう配列すると効果的かを考える際などに働かせる知識・技能として、側面①に位置付ける。

※個別の内容の具体的な位置付け方や示し方は、今後、告示文を検討する中で整理する。

【例②（統合）】e/C:漢字の読みと書き、s:漢字の構成

現行では、「漢字の読みと書き」と「漢字の構成」は以下のとおり別の内容として示しているが、それぞれの内容を一体的に学ぶことで学習の効果が高まると考えられる。当該事項や「解説」が示している内容にも留意しながら、発達段階に応じた知識・技能の内容として統合し、小・中・高等学校を通じた系統性を整理して位置付け直してはどうか。

e/C:漢字の読みと書き

【現行】〈関連する現行の〔知識及び技能〕の事項〉

小学校	中学校	高等学校
<p>【第1学年及び第2学年】</p> <p>(1)イ 第1学年においては、別表の学年別漢字配当表（以下「学年別漢字配当表」という。）の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。</p> <p>【第3学年及び第4学年】</p> <p>(1)イ（省略）</p> <p>【第5学年及び第6学年】</p> <p>(1)イ（省略）</p>	<p>【第1学年】</p> <p>(1)イ 小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表（以下「学年別漢字配当表」という。）に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読むこと。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うこと。</p> <p>【第2学年】</p> <p>(1)ウ（省略）</p> <p>【第3学年】</p> <p>(1)ア（省略）</p>	<p>【現代の国語】</p> <p>(1)ウ 常用漢字の読み慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うこと。</p> <p>【言語文化】</p> <p>(1)イ 常用漢字の読み慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うこと。</p>

s:漢字の構成

【現行】〈関連する現行の〔知識及び技能〕の事項〉

小学校	中学校	高等学校
<p>【第3学年及び第4学年】</p> <p>(3)ウ 漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解すること。</p> <p>（参考）</p> <p>【第5学年及び第6学年】</p> <p>(3)ウ 語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き、共通語と方言との違いを理解すること。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。</p>	-	-

統合

【改善イメージ】知識・技能の内容（要素の例）

次のように内容をまとめることが考えられる。

- 新たに学習する漢字の書き方や読み方を機械的に暗記するのではなく、漢字の構成や由来、特質と関連付けながら理解し、正しく書いたり読んだりすることを支える知識・技能としてまとめ、【側面②】に位置付ける。
- ただし、学年及び科目ごとに学習の対象とする漢字（太字部分）は、現行から変更することはしない。

※個別の内容の具体的な位置付け方や示し方は、今後、告示文を検討する中で整理する。

【系統化】パターン：現行の知識・技能の内容を整理し、系統的に位置付け直すもの

【例】w/R:段落の構造

段落の構造に関する知識・技能は、第7回WGで示した思考・判断・表現の要素（参考資料3の主に赤枠内）と関連して、各領域の学習で働かせることが考えられる（段落の内容を分かりやすく伝える/段落で述べられている内容を理解するなど）。

「段落の構造」の知識・技能は、複数の領域の思考・判断・表現の過程で働かせることにより学習の効果が高まると考えられる。この内容は、現行の特定の校種や科目の〔知識及び技能〕の事項で示しているため、当該事項や「解説」が示している内容にも留意しながら、発達段階に応じた知識・技能の内容として小・中・高等学校を通じた系統性を整理して位置付け直しはどうか。

【現行】〈関連する現行の〔知識及び技能〕の事項〉

小学校	中学校	高等学校
<p>【第3学年及び第4学年】 (1)カ 主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。</p> <p>（参考）「段落の役割」に関する「解説」の記述 段落は、改行によって示されるいくつかの文のまとまりである形式段落と、その形式段落のいくつかの意味のつながりの上でひとまとまりになった意味段落とがある。段落には問題を提示したり、具体例を示したり、理由を述べたり、結論を述べたりするなどの役割がある。これらの段落相互の関係を理解することで、内容を把握したり必要な情報を的確に見付けたりすることができる。また、段落や段落相互の関係を明確にして表現することで、自分の思いや考えをより適切に表すことができる。（p. 83）</p>	<p>—</p>	<p>【論理国語】 (1)エ 文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めること。</p> <p>（参考）「段落の構造」に関する「解説」の記述 段落の構造とは、段落内部における文の組立てと、段落相互の関係の両方を指している。例えば、論証する文章においては、一つ一つの段落も典型的な構造をもっている。一般に、一つの段落には、中心となる一つの文と、その内容を支える（言い換えたり、例を挙げたりする）文のみが含まれ、中心となる文が複数含まれることはない。典型的な学術論文は、各段落の中心文だけをつなげて読めば、文章全体の論旨が理解できるように構成されている。このような段落の構造のほか、必要に応じて他の資料を引用し、段落中で適切に示しながら展開する仕方などについて理解を深めることを求めている。（p.150）</p>

※ 「解説」では、「段落の役割」は「段落相互の関係」における「役割」を指しており、「段落の構造」は「段落内部における文の組立て」と「段落相互の関係」の双方を指している。段落の内容を理解する際や、文章を書く過程で段落の記述を行う際などには、「話や文章の種類」に応じた「段落内部における文の組立て」に関する知識・技能を働かせることが考えられる。そのため、発達段階に応じた「段落内部における文の組立て」に関する内容を整理することが重要なのではないかと。また、「段落相互の関係」は「話や文章の構成や展開」とも関わるため、「段落内部における文の組立て」と「段落相互の関係」、「話や文章の構成や展開」の内容をどのように整理し、精選するかという点の検討や用語の整理も重要なのではないかと。

【改善イメージ】知識・技能の内容（要素の例）

小学校	中学校	高等学校
<p>・一つの話題や考えのまとまりの単位として、中心となる事柄を表す文と、主にそれを詳しくしたり、理由や具体例を加えたりする文とによって構成する段落のつくり方。</p>	<p>・一つの話題や考えのまとまりを表すとともに、文章全体の論理を支える単位として、中心となる文と、主にその内容を理由、具体例、説明、言い換えなどによって支える文とによって構成する段落のつくり方。</p>	<p>・一つの話題や考えのまとまりを表すとともに、文章全体の論理を支える単位として、文章の種類に応じて構成する段落のつくり方とその様々な効果。</p>

※知識及び技能の内容の整理に関する考え方を補足するための現時点でのイメージを示すもの。個別の内容の具体的な位置付け方や示し方は、今後、告示文を検討する中で整理する。

【明確化】パターン：思考・判断・表現の事項から必要となる内容を明確化し、系統的に位置付けるもの

- 右の知識・技能の内容は、複数の領域の思考・判断・表現の過程で働かせることにより学習の効果が高まると考えられる。これらは、現行の〔思考力、判断力、表現力等〕の事項の内容に含まれているので、当該事項を基に、発達段階に応じた知識・技能の内容として整理してはどうか。その際の基本的な考え方として、例えば、次のようなイメージが考えられる。

x/S：場面の設定
y/T：情景や心情、行動などの描写の仕方
z/U：図表などの用い方や効果

【例①】x/S：場面の設定

場面の設定に関する知識・技能は、第7回WGで示した思考・判断・表現の要素（参考資料3の主に青枠内）と関連して、「B書くこと」「C読むこと」の領域の学習で働かせることが考えられる（場面を設定して物語などを書く/物語などの場面を捉えて構造と内容を理解・解釈するなど）。

【現行】〈関連する現行の〔思考力、判断力、表現力等〕の事項〉「B書くこと」「C読むこと」の領域との関連

小学校	中学校	高等学校
<p>【第1学年及び第2学年】 C(1)イ 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。 C(1)エ 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。</p> <p>【第3学年及び第4学年】 C(1)エ 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。</p>	<p>【第1学年】 C(1)イ 場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えること。 C(1)ウ 目的に応じて必要な情報に着目して要約したり、場面と場面、場面と描写などを結び付けたりして、内容を解釈すること。</p> <p>（参考） 「解説」では第2学年B(1)イの内容の説明で「物語を書く場合には、伝えたい事柄がどのように推移し展開したのかが明確になるように、場面や登場人物などの設定や事件の発端、山場、結末などの文章の構成を考えて書くことが重要」と示している。</p>	<p>【文学国語】 B(1)イ 語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈すること。 ※「文学国語」のBは「読むこと」</p> <p>（参考） 「解説」では文学国語A(1)イの内容の説明で「登場人物や場面、物語の結末をどのようにするのかという設定などを工夫すること」を示している。 ※「文学国語」のAは「書くこと」</p>

【改善イメージ】知識・技能の内容（要素の例）

小学校	中学校	高等学校
<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物、時、場所、出来事などを基本的な要素とした場面の設定の仕方。 ・場面の基本的な要素の一つ又は複数が変わることによる場面の移り変わり方。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な場面の要素に加えて、語り手や視点などにもよる様々な場面の設定の仕方や移り変わり方。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な場面の要素に加え、社会的・文化的背景、語り手や視点、時制、感覚などによる具体的・象徴的な場面の設定の仕方や移り変わり方。

※知識及び技能の内容の整理に関する考え方を補足するための現時点でのイメージを示すもの。個別の内容の具体的な位置付け方や示し方は、今後、告示文を検討する中で整理する。

【例②】y/T：情景や心情、行動などの描写の仕方

情景や心情、行動などの描写の仕方に関する知識・技能は、第7回WGで示した思考・判断・表現の要素（参考資料3の主に青枠内）と関連して、「B書くこと」「C読むこと」の領域の学習で働かせることが考えられる（描写を工夫して物語などを書く/物語などの描写を基に構造と内容を理解・解釈するなど）。

【現行】〈関連する現行の〔思考力、判断力、表現力等〕の事項〉 「B書くこと」「C読むこと」の領域との関連

小学校	中学校	高等学校
<p>【第5学年及び第6学年】 C(1)イ 登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。</p>	<p>【第1学年】 C(1)イ 場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えること。 C(1)ウ 目的に応じて必要な情報に着目して要約したり、場面と場面、場面と描写などを結び付けたりして、内容を解釈すること。 【第2学年】 B(1)ウ 根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること。</p>	<p>【言語文化】 A(1)イ 自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫すること。 ※「言語文化」のAは「書くこと」 【文学国語】 B(1)ア 文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えること。 ※「文学国語」のBは「読むこと」 【国語表現】 B(1)オ 自分の思いや考えを明確にし、事象を的確に描写したり説明したりするなど、表現の仕方を工夫すること。</p>



【改善イメージ】知識・技能の内容（要素の例）

小学校	中学校	高等学校
<p>・人物、場面、行動、会話、心情などの様子を、読み手が具体的に想像できるように表す描写の仕方。</p>	<p>・人物像や人物の相互関係、心情の変化、場面の雰囲気などを語り手の視点から捉え、直接的又は間接的に表し、読み手の想像や解釈を支える描写の仕方。</p>	<p>・人物像や人物の相互関係、心情や経験の意味、場面の印象などを語り手の視点から捉え、視点や文体を変えるなどして多面的に表し、読み手の想像や解釈を深める描写の仕方。</p>

※知識及び技能の内容の整理に関する考え方を補足するための現時点でのイメージを示すもの。個別の内容の具体的な位置付け方や示し方は、今後、告示文を検討する中で整理する。

【例③】z/U：図表などの用い方や効果

図表などの用い方や効果に関する知識・技能は、第7回WGで示した思考・判断・表現の要素（参考資料3の主に赤枠内）と関連して、各領域の学習で働かせることが考えられる（図表を用いて分かりやすく話したり書いたりする/図表を用いた文章や話の内容を理解するなど）。

【現行】〈関連する〔思考力、判断力、表現力等〕の事項〉「A話すこと・聞くこと」「B書くこと」「C読むこと」の領域との関連

小学校	中学校	高等学校
<p>【第5学年及び第6学年】 B(1)エ 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 C(1)ウ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。</p>	<p>【第2学年】 C(1)ウ 文章と図表などを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈すること。</p>	<p>【現代の国語】 C(1)イ 目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めること。</p>
<p>【第5学年及び第6学年】 A(1)ウ 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。</p>	<p>【第2学年】 A(1)ウ 資料や機器を用いるなどして、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること。</p>	<p>【現代の国語】 A(1)ウ 話し言葉の特徴を踏まえて話したり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の理解が得られるように表現を工夫すること。 【国語表現】 A(1)エ 相手の反応に応じて言葉を選んだり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の同意や共感が得られるように表現を工夫すること。</p>

※表の下段は「資料」と示しているが、その中に「図表」も含まれるため、参考として掲載している。

※中・高では「書くこと」の事項として示していなくても、言語活動例では、「図表などを引用して説明したり記録したりする」文章（中学校第1学年）、「文章と図表や画像などを関係付けながら、企画書や報告書など」（国語表現）を書く活動を例示している。

※「現代の国語」A(1)ウの事項の解説では、「発表する際には、単に情報を視覚化するだけでなく、示したい内容を強調したり、取材し記録した内容を再現したり、提示した資料を投影しその画面にその場で情報を書き込んで説明を補ったりするなど、聴衆の理解を促す工夫」や「カメラ機能、録画機能など複数の機能を活用すること」を示している。

【改善イメージ】知識・技能の内容（要素の例）

小学校	中学校	高等学校
<p>・表やグラフ、写真や模式図などと話や文章の対応関係の捉え方・示し方</p>	<p>・様々な種類の図表などと話や文章との対応関係の捉え方 ・目的に応じた様々な種類の図表などを組み合わせた用い方とその効果</p>	<p>・話や文章の種類を踏まえた図表などと話や文章とのより具体的な対応関係の捉え方 ・話や文章の種類を踏まえた様々な図表などの効果的な活用の仕方（組み合わせ方）</p>

※現行における「図表などの用い方や効果」に関する事項の示し方を踏まえ、今後、具体的な内容を検討する際には、話や文章と図表、写真、動画等とを組み合わせ思考・判断・表現する際に働かせる知識・技能として、発達段階に応じた内容となるよう留意することが重要である。

※知識及び技能の内容の整理に関する考え方を補足するための現時点でのイメージを示すもの。個別の内容の具体的な位置付け方や示し方は、今後、告示文を検討する中で整理する。

「事項のまとめり（仮称）」は、いずれの側面においても、「知識及び技能の統合的な理解」につながる主な性質に応じ、それぞれの内容を構造化して示すために設けるものである。その際、各側面の「事項のまとめり（仮称）」は、次のような役割を果たせるように設定することが重要である。

- ・ 側面①では、各領域の思考・判断・表現の過程で、どの知識・技能を、何のために働かせるのかを見えやすくする
 - ・ 側面②では、各領域の学習を支える言葉や言語文化に関する基盤的な知識・技能を、どのような意義や価値と結び付けて身に付け、深めていくのかを見えやすくする
- そこで、各「事項のまとめり」は、次のような知識・技能の主な性質を示すものとして整理することが考えられる。

(1)各領域の学習の過程で生かし深める事項（仮称）

事項のまとめり（仮称）	知識・技能の主な性質（概略）
音読（小）	「読むこと」：文字や語句を正確に捉え、声に出して流暢に読むことを通して、文や文章の内容を確かに理解するための基盤として働かせる知識・技能
話や文章の構造	「読むこと」「聞くこと」：段落や場面、構成や展開を手掛かりに内容を理解・解釈するために働かせる知識・技能 「書くこと」「話すこと」：考えや内容を筋道立てて組み立てるために働かせる知識・技能
表現の仕方	「読むこと」「聞くこと」：文の組立て、語句の選択、描写、表現の技法、引用、図表などの効果を捉えるために働かせる知識・技能 「書くこと」「話すこと」：意味や意図が伝わるようにそれらの表現を工夫するために働かせる知識・技能
情報と情報との関係	「読むこと」「聞くこと」：話や文章に含まれる情報同士の関係を整理して内容を理解するために働かせる知識・技能 「書くこと」「話すこと」：根拠と主張、原因と結果、具体と抽象などの関係を明確にして考えを形成するために働かせる知識・技能
情報の信頼性	「読むこと」「聞くこと」：情報の根拠や出典、発信元などを確かめて内容を吟味するために働かせる知識・技能 「書くこと」「話すこと」：信頼できる情報を根拠として用い、妥当な考えや内容を伝えるために働かせる知識・技能
古典を読むための言葉のきまり（高）	「読むこと」：古典作品の解釈や内容理解のために働かせる知識・技能

(2)各領域の学習を支える文化的な知識や態度、教養として深める事項（仮称）

事項のまとめり（仮称）	知識・技能の主な性質（概略）
言葉のきまりや使い方	言葉の働き、書き言葉と話し言葉、漢字、語彙、単語の類別や活用、助詞や助動詞などの働き、言葉遣い、時代・地域・世代による言葉の違いなどについて理解し、我が国の言葉がもつ体系性や変化、多様性への理解を深めるとともに、適切で豊かな言語使用の基盤を形成するための知識・技能
伝統的な言語文化	音読するなどして我が国の伝統的な言語文化の世界に親しむとともに、そこに表れたものの見方や考え方について歴史的・文化的背景を踏まえながら理解することを通して、我が国の言語文化の特質や価値を捉えるための知識・技能
読書	自らの興味・関心や目的に応じて本や資料を選び、様々な文章や作品に継続的に親しむとともに、読書経験を通して考えたこと、感じたことなどを伝え合い、読書の意義や効用を実感することを通して、自立的な読書習慣を形成するための知識・技能
書写（小・中）	姿勢、筆記具の扱い、点画、筆順、字形、文字の配列、楷書・行書などの書き表し方を理解し、読みやすく整った文字を、相手や目的に応じて効果的に書くとともに、文字文化への理解を深めるための知識・技能

(注) ・「音読」は、第2回WGにおける犬塚委員ご発表資料（参考資料4）の「読んで理解するプロセス」で示している「文字の同定」や「単語同定」に主に関わり、読むことの思考・判断・表現の過程で繰り返し働かせる知識・技能として小学校段階に設けている。

・「古典を読むための言葉のきまり」は、第5回WGにおいて整理の考え方を検討（参考資料2-4）

・「書写」は、文字の正しい認識や正確な書字の能力の習得に加え、我が国の文字文化に対する実感を持った理解を発達段階に応じて深めていくという観点からも、引き続き手書きによる知識・技能として小・中学校段階に設けている。

・「話し合うこと」は「話すこと」「聞くこと」の双方の往還であるため、上表では「話すこと」「聞くこと」の双方に含まれるものとする。

※「内容の取扱い」において、次の点に留意すべきであることを示してはどうか。

・(1)の内容については、「必要に応じて、特定の事項を取り上げたりまとめたりして指導するなど、指導の効果を高める工夫に留意すること」

・(2)の内容については、「必要に応じて思考・判断・表現の過程で活用できるよう指導するなど、指導の効果を高めること」

※補足イメージ5の整理をもとに、具体的な事項を「事項のまとめ（仮称）」ごとに分類して構造化したイメージ

【小・中学校段階】

(1) 各領域の学習の過程で生かし深める事項（仮称）

事項のまとめ（仮称）	知識・技能の内容（概略）
音読（小学校のみ）	・l:音読や朗読（小学校のみ）
話や文章の構造	・i:話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴 ・w:段落の構造 ・x:場面の設定
表現の仕方	・c:分かりやすく明瞭な話し方 ・f:文脈の中での語句の意味理解、文脈に応じた語句の選択 ・h:文の成分の順序や照応など文の構成 ・k:表現の技法の種類とその特徴 ・n:引用の仕方や効果（r:を含む） ・y:情景や心情、行動などの描写の仕方 ・z:図表などの用い方や効果
情報と情報との関係	・m:情報と情報との関係 ・n:情報の整理の仕方
情報の信頼性	・n:情報の信頼性の確かめ方

(2) 各領域の学習を支え文化的な知識や態度、教養として深める事項（仮称）

事項のまとめ（仮称）	知識・技能の内容（概略）
言葉のきまりや使い方	・a:言語が共通にもつ言葉の働き ・b:文字と音声との対応や語の認識、d:書き言葉のきまり ・e:漢字の読み方・書き方、s:漢字の構成 ・f:語句同士の関係を理解し、語彙を豊かにする（p:を含む） ・g:単語の類別、単語の活用、助詞や助動詞などの働き ・j:敬語の働き、相手や場に応じた言葉遣い ・t:時代による言葉の違い、地域や世代による言葉の違い
伝統的な言語文化	・o:音読するなどして言葉の響きや伝統的な言語文化の世界に親しむ ・q:古典に表れたものの見方や考え方
書写	・u:姿勢、筆記具の持ち方、点画や一文字の書き方、筆順、文字の集まりの書き方、楷書や行書の書き方、文字言語の豊かさに触れながら効果的に文字を書く
読書	・v:選書の仕方、自らの興味・関心等に応じた自立的な読書

【高等学校（必修）段階】

(1) 各領域の学習の過程で生かし深める事項（仮称）

事項のまとめ（仮称）	知識・技能の内容（概略）
話や文章の構造	・F:話、文章の構成や特徴 ・R:段落の構造 ・S:場面の設定
表現の仕方	・E:文の効果的な組立て方 ・D:文脈の中での語句の意味理解、文脈に応じた語句の選択 ・H:表現の技法の種類とその特徴 ・J:引用の仕方や効果 ・T:情景や心情、行動などの描写の仕方 ・U:図表などの用い方や効果
情報と情報との関係	・I:情報と情報との様々な関係 ・J:情報の整理
情報の信頼性	・J:情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方
古典を読むための言葉のきまり	・M:文語のきまりや訓読、古典特有の表現

(2) 各領域の学習を支え文化的な知識や態度、教養として深める事項（仮称）

事項のまとめ（仮称）	知識・技能の内容（概略）
言葉のきまりや使い方	・A:言語が共通にもつ言葉の働き ・B:話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色 ・C:漢字の読みと書き ・D:語句同士の関係を理解し、語彙を豊かにする ・G:敬語を含め広く相手や場に応じた表現や言葉遣い ・O:時間の経過や地域・文化的特徴などによる文字や言葉の変化 ・P:歴史的な文体の変化
伝統的な言語文化	・K:我が国の文化と外国の文化との関係 ・L:我が国の文化・言語文化の特質 ・M:作品の歴史的・文化的背景 ・MN:伝統的な言語文化に親しむ
読書	・Q:選書の仕方、自らの興味・関心等に応じた自立的な読書

令和8年2月9日
教育課程部会
第5回国語WG
資料1 (P.17)

(第4回WGで示した改訂案)

思考力、判断力、
表現力等

A話すこと・聞くこと	B書くこと	C読むこと
総合的な発揮 目的などに応じて、社会生活に関わる課題や出来事などについて、自分の考えや感じたことなどを相手に伝えるように工夫して話すとともに、相手の話を聞いた話し合ったりして考えをを広げ深めることができる。	総合的な発揮 目的などに応じて、社会生活に関わる課題や出来事、自分の経験などについて、自分の考えや感じたことなどを相手に伝えるように工夫して文章を書くことができる。	総合的な発揮 目的などに応じて文章を読んで内容を理解し、社会生活に関わる課題や出来事、自分の経験などと結び付けながら考えを広げ深めることができる。
側面① 統合的な理解 社会生活に必要な言葉の様々な意味や働き、使い方を身に付け、目的などに応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。	側面① 統合的な理解 社会生活に必要な言葉の様々な意味や働き、使い方を身に付け、目的などに応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。(再掲)	側面① 統合的な理解 社会生活に必要な言葉の様々な意味や働き、使い方を身に付け、目的などに応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。(再掲)
側面② 統合的な理解 幅広く多様な言葉に触れ蓄えながら言語文化のもつ意義や価値を捉えることが、自己の形成、社会生活の向上、文化の創造と継承につながることを理解している。		

改訂案

思考力、判断力、
表現力等

A話すこと・聞くこと	B書くこと	C読むこと
総合的な発揮 相手や状況、目的に応じて、話し方・聞き方を工夫することにより、考えや思いをよりよく伝えるとともに、他者とのやり取りを通じて自分の考えを捉え直し、広げ深めることができる。	総合的な発揮 相手や状況、目的に応じて、文章の書き方を工夫することにより、考えや思いをよりよく伝えることができる。	総合的な発揮 状況や目的に応じて、文章の読み方を工夫することにより、理解や解釈したことを踏まえて自分の考えを広げ深めることができる。
側面① 統合的な理解 社会生活に必要な言葉の様々な意味や働き、使い方を身に付け、相手や状況、目的に応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。	側面① 統合的な理解 社会生活に必要な言葉の様々な意味や働き、使い方を身に付け、相手や状況、目的に応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。(再掲)	側面① 統合的な理解 社会生活に必要な言葉の様々な意味や働き、使い方を身に付け、状況や目的に応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。
側面② 統合的な理解 幅広く多様な言葉に触れ蓄えながら我が国の言語文化のもつ意義や価値を捉えることが、自己の形成、社会生活の向上、文化の創造と継承につながることを理解している。		



具体的論点

令和 8 年 2 月 9 日
教育課程部会
第 5 回国語WG
(資料 2 P. 6)

3. 論点

- 語彙の学習を、「語句を知る学習」から「意味や働き、使い方を吟味しながら考え、感じ、表す学習」へどう広げていくか。
- 個々の語句の意味理解に留まらず、語句相互のつながりや広がりをつかえ、自分の語彙を豊かにしていく学びを、どのように位置付けるか。

4. 改善方策

(1) 改善の方向性

- 生成AIが飛躍的に発展する中、人間ならではの実感を伴った理解や思考、表現を支える語感を磨き、語彙を豊かにするための学習として、主に次の二つの方向性の学習を充実させることとしてはどうか。
 - ① 文脈の中で語句を「使い」ながら、主に語感を磨く学習の充実
 - ・実際に話したり聞いたり書いたり読んだりする場面で、辞書等を活用しながら未知語に限らず自分が着目した語句の意味や働き、使い方を理解したり考えたりすることで、話や文章に対する解釈を深めたり、より適切な表現を工夫したりする学習
 - ② 語句同士の関係を「理解し」ながら、主に語彙を豊かにする学習の充実
 - ・個別の知識の集積で終わるのではなく、それらを関連付け、「語句のまとめり」に着目して「語彙」に関する概念的な理解を深める学習

(2) 記載の改善イメージ

- このような学習の方向性を明確にし、更なる授業改善を推進するため、
 - ①に関する学習を、第3回WGで検討した【知識及び技能】の①「各領域の学習の過程で生かし深める側面」の事項とする
 - ②に関する内容を、第3回WGで検討した【知識及び技能】の②「各領域の学習を支え文化的な知識や態度、教養として深める側面」の事項とする (P4 参考資料参照)とする形で、【知識及び技能】の2つの側面を体系的に整理した学びを展開してはどうか。
- 併せて、基盤となる言語能力の育成の視点から、国語科に限らず各教科等の学習の基盤となる語句に対する児童生徒の理解を促すため、日常的に用いられる語句、教科横断的に学習で用いられる語句、教科特有の意味をもつ語句それぞれの課題を整理し、今後の指導や施策の改善に生かしてはどうか。



具体的論点

令和8年2月9日
教育課程部会
第5回国語WG
(資料2 P.9)

3. 論点

- 読書を、「授業のために限られた時間で読む活動」から、「自らの興味・関心や時間に応じて考えを広げたり深めたりするために読む営み」へどのように移行させていくか。
- また、読書を通して出会った語句や表現、ものの見方や考え方を、自分の中に蓄え、次の学びや生活につなげていく力を、どのように育てていくか。

4. 改善方策

(1) 改善の方向性 ※ここでの記載はデジタルの活用を含む

- 読書習慣の形成は、単に読む量を増やすのではなく、読書を通して楽しみながら考えを広げたり深めたりする経験を重ねることが重要。
- そのためには、授業内外をつなぎながら、自立的な読書へと移行していく学習の積み重ねが図られるよう改善してはどうか。
 - ① 読書へのきっかけの創出や動機付けを高める機会の充実
 - 学校図書館や公共図書館等で本などと出合ったり司書等から勧められたり、自らの興味・関心や学習で生まれた問いに応じて選んだりする機会の創出
 - 児童生徒が様々な本（電子書籍を含む）などにアクセスしやすい環境の整備（学校(学校図書館を含む)、公共図書館との連携)
 - ② 自立的な読書への移行を支える学習の充実
 - 授業内外の時間を使って読書する「計画の立て方」や「様々な選書の仕方」を理解し、自分に合った読書の仕方を身に付けられるようにする学習を充実
 - 読書後に、考えたこと、感じたことを伝え合い、自分の考えを確かなものにし、読書の意義や効用を実感したりする学習を充実
 - 読書の足跡をデジタル等で記録し、振り返りながら、自分の読書の広がりや深まりに気付いたり、互いの読書の仕方を共有してよりよい読書の仕方を試行錯誤する学習を充実

(2) 記載の改善イメージ

- このような学習の方向性を明確にし、更なる授業改善を推進するため、①・②の方向性を踏まえ、発達段階に応じて〔知識及び技能〕の②「各領域の学習を支える文化的な知識や態度、教養として深める側面」の事項として整理し直してはどうか。
- また、司書教諭、学校司書等と連携しながら学校図書館の機能の充実やその計画的な利活用等による学校の教育活動全体における読書環境の整備を合わせて進めていくことが重要ではないか。（P19・P20 参考資料参照）

	小学校			中学校			高等学校
	第 1 学年・第 2 学年	第 3 学年・第 4 学年	第 5 学年・第 6 学年	第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年	現代の国語
と情報との関係	ア 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。	ア 考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。	ア 原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。	ア 原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解すること。	ア 意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解すること。	ア 具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めること。	ア 主張と論拠など情報と情報との関係について理解すること。 イ 個別の情報と一般化され情報との関係について理解すること。
情報の整理	—	イ 比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。	イ 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。	イ 比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方、引用の仕方や出典の示し方について理解を深め、それらを使うこと。	イ 情報と情報との関係の様々な表し方を理解し使うこと。	イ 情報の信頼性の確かめ方を理解し使うこと。	ウ 推論の仕方を理解し使うこと。 エ 情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使うこと。 オ 引用の仕方や出典の示し方、それらの必要性について理解を深め使うこと。

○改訂の方向性

- ◆ 次のように、【情報と情報との関係】と【情報の信頼性】の二系統に整理し直してはどうか。
- ◆ 現行の「情報の整理」に関する事項に含まれる「引用の仕方や出典の示し方」、「辞書や事典の使い方」は、別途「知識及び技能」として再整理することを検討

小学校

【情報と情報との関係】

- ・情報と情報との関係を理解するためには、それらの関係を図や表などを用いて表すことが重要である。
- ・そこで、現行の「情報と情報との関係」と「情報の整理」の内容を、小学校低学年から一体的に学習する内容としてはどうか。

【情報の信頼性】

- ・発信元や発信時期の確認など、初歩的な情報の信頼性の確かめ方について理解し使うことに重点を置いた内容としてはどうか。

（例）共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解するとともに、その関係を図や表などを用いて表すこと。

中学校・高等学校

【情報と情報との関係】

- ・中学校及び高等学校の学習で扱う話や文章に含まれる情報は、小学校に比べ量の増加、質の高度化・抽象化により情報と情報との関係の複雑化が生じるため、小学校で学習した個別の「基本的な情報と情報との関係を図や表などを用いて表す」知識及び技能の特徴を理解し、学習の目的に応じてそれらを使いこなし、複雑な関係でも整理できるようになることが重要となる。
- ・また、話や文章に含まれる「情報と情報との関係」については、原因と結果、意見と根拠（主張と論拠）、具体と抽象の関係に該当する情報を取り出して整理するだけでなく、それらの適切な関係の在り方を理解し説明できるようになることが重要となる。
- ・そこで、現行の内容を基にして、次の 2 つの内容を「情報と情報との関係」の内容として整理し直してはどうか。

- ◆ 小学校での学習を踏まえ、情報と情報との適切な関係の在り方の理解を深め、説明できるようになることに重点を置く内容
- ◆ 小学校及び中学校で学習する「情報と情報との関係」の理解を踏まえ、目的に応じた情報と情報との関係の様々な表し方を理解し使うことに重点を置く内容

【情報の信頼性】

- ・小学校での学習を踏まえ、
- ◆ 複数の情報を比較して事実関係や裏付けとなる根拠を確認したり、その妥当性を吟味するなど社会生活で必要となる情報の信頼性の確かめ方を理解し使うことに重点を置いた内容としてはどうか。

現行学習指導要領での記載

(2) 我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
伝統的な言語文化	ア 我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解すること。
	イ 古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解すること。
	ウ 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解すること。

【改善のイメージ】

- ・〔知識及び技能〕の側面（仮称）①に「古典を読むための言葉のきまり」を、〔知識及び技能〕の側面（仮称）②に「我が国の伝統的な言語文化」を設ける
- ・「古典を読むための言葉のきまり」に、文語のきまりや訓読のきまりについての事項を位置付ける
- ・「我が国の伝統的な言語文化」に、古典に親しむことについてや言語文化や古典作品の歴史的・文化的背景を理解することについてを位置付ける

改訂後のイメージ

次のように整理し、それぞれの学習を充実するための内容を位置付けてはどうか。

〔知識及び技能〕の側面（仮称）①

各領域の学習の過程で生かす深める側面	古典を読むための言葉のきまり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文語のきまりや訓読のきまりを作品理解を支える手段として位置付ける学習
--------------------	----------------	--

〔知識及び技能〕の側面（仮称）②

各領域の学習を支え文化的な知識や態度、教養として深める側面	我が国の伝統的な言語文化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身近な事象などを、言語文化の文脈の中で考えを深め自分のこととして捉えることで、伝統的な言語文化に親しむ学習 ・ 古典を読む基盤として言語文化の歴史的・文化的背景などを理解する学習 ・ 言語文化への理解を深めるための我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係についての学習
-------------------------------	--------------	--

「話や文章の機能（仮称）」による再整理のイメージ

第2回WG提案

言葉を使う目的
 (仮称)

情報の伝達/
 情報の獲得

他者の説得/
 他者の主張の吟味

感動の共有/
 感動への共感

合意形成

古典に学ぶ
 ※高等学校



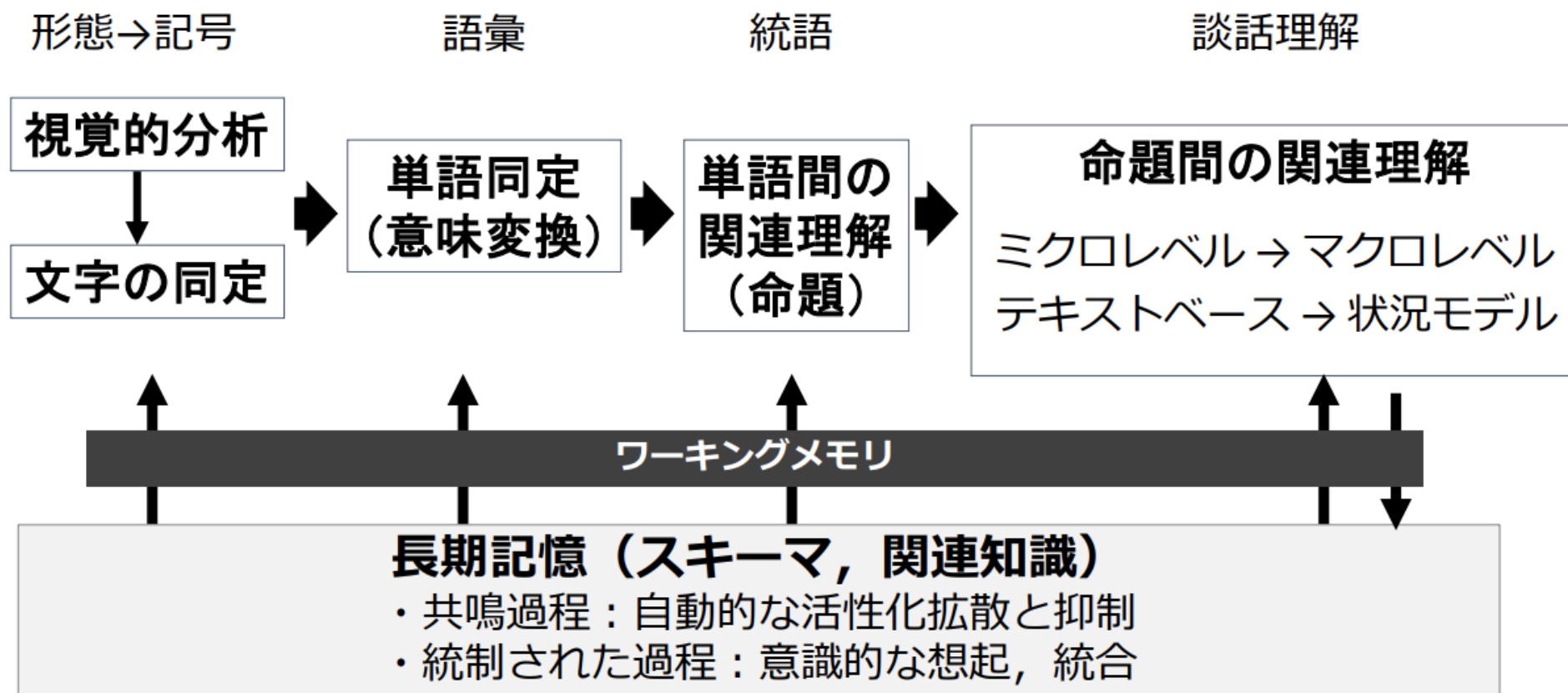
今回の提案

話や文章の機能 (仮称)	社会的な文脈の中で 果たす主な機能	話や文章の種類 (例)	話や文章の機能を踏まえた 思考・判断・表現の要素 (イメージ)
事実や知識の整理と理解	事物や事象の構造・しくみ・意味・特徴・因果関係などを整理し、筋道立てて分かりやすく示すことを通して、 理解を促す機能	・説明や解説をする話 (紹介、報告、説明、解説など) ・説明や解説をする文章 (報告文、記録文、説明文、解説文など)	・相手や目的に応じて重要な情報を見極めて関係を整理し、構成や表現の仕方を工夫して伝える。 ・内容を理解し、既存の知識や経験と関係付けながら意味付けたり考えたりする。
考えや主張の理由付けと吟味	考えや主張を、理由や根拠と結び付けて筋道立てて示すことを通して、 判断や納得を促し、必要に応じて考えや行動に働きかける機能	・主張や提案を述べる話 (主張、提案など) ・意見、主張や提案を述べる文章 (論説、批評など)	・考えや主張を支える理由や根拠を組み立て、相手や目的に応じて構成や表現の仕方を工夫して伝える。 ・考えや主張と理由・根拠との関係を捉え、その妥当性を判断し、納得したり批判的に検討したりする。
思いや経験の表出と想像	経験や想像した出来事・情景、思いや心情などを多様な表現の工夫によって描き出すことを通して、 想像し、感じたり考えたりすることを促す機能	・経験や想像したこと、感じたことを表す文章 (詩、短歌、俳句、随筆、物語、小説など)	・経験や思い、想像した世界を、目的に応じて、構成、語り方、描写、技法などを工夫して描き出す。 ・目的に応じて、表現された内容を想像し、意味付けたり考えたりするとともに、解釈や評価を深める。
協働による深化や合意	他者と協働して互いの考えや情報を出し合い、吟味・調整することを通して、 理解や考えを深め、必要に応じて合意形成や意思決定に向かうことを促す機能	・質疑応答、議論や討論などの話合い	・自分の考えや情報を伝え合うとともに、他者とやり取りしながら、理解や考えを修正・補強する。 ・互いの考えの共通点や相違点を捉えて整理し、折り合いを付けたり方向付けたりする。
伝統的な言語文化の継承と創造	時代を越えて先人の知や洗練された言語感覚を伝えることを通して、その 重要性を理解し、意義や価値を現代に生かすことを促す機能	・近世までに書かれた文章 (古文・漢文など)	・作品の内容や解釈を踏まえ、自分の考えを深め、伝統的な言語文化について自分の考えをもつ。 ・古典の意義や価値を理解し、現代における新たな価値の創出について考える。

※「話や文章の種類 (例)」は、現行学習指導要領の〔思考力、判断力、表現力等〕の各領域の(2)で示している言語活動例を基に概略のみを示している。
 ※実際の話や文章は、それぞれが上記の機能を複合的に果たしている場合も考えられる。一方、ここでの「話や文章の機能 (仮称)」は、児童生徒が学習で扱う話や文章について、その主な機能を示すものであり、これらの「話や文章の機能 (仮称)」と関連付けながら学習指導要領の内容項目を整理・構造化することをねらいとしている。

※犬塚委員によるご発表資料より抜粋

読んで理解するプロセス



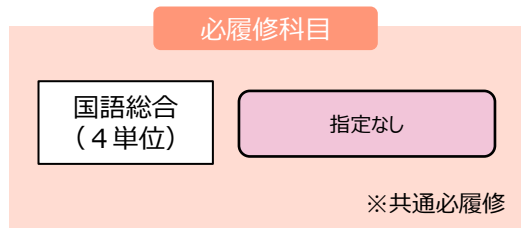
議題
(2)

高等学校国語科の科目の在り方について

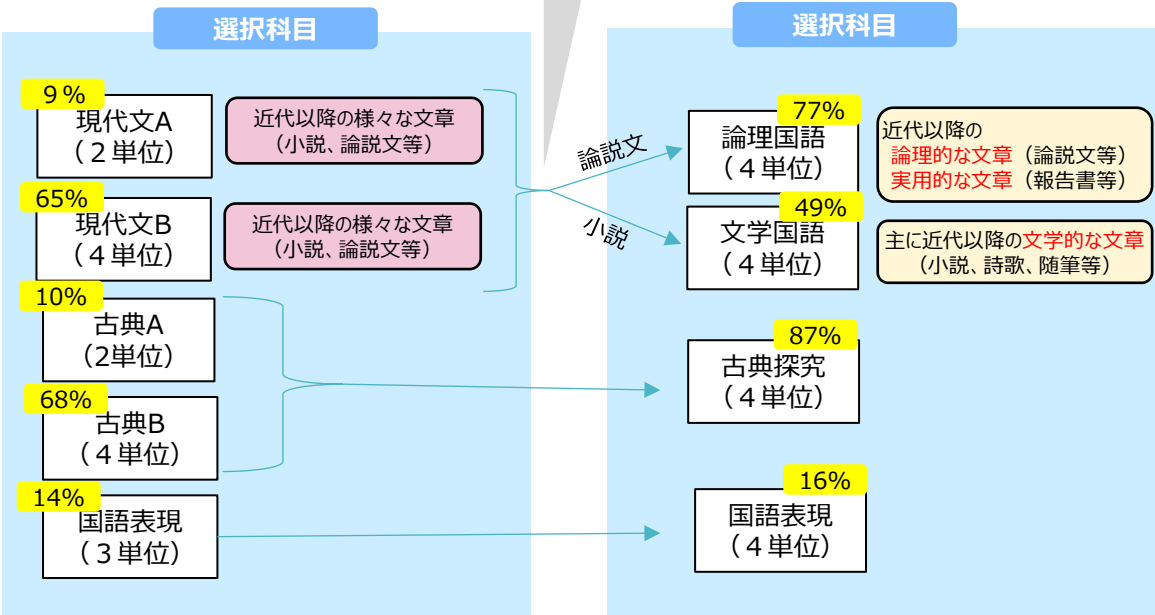
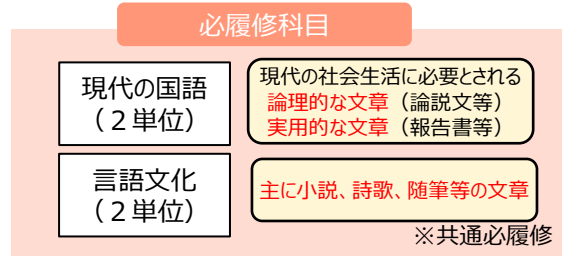
高等学校国語科の科目変遷・現行改訂時の考え方

近年の科目変遷の流れ

平成21年3月告示



平成30年3月告示



※「%」は、教科書の需要数を基に、文部科学省にて推計した履修率。(必修科目の需要数を履修率100%として算出。平成30年告示版は、必修修2科目の需要数に差があるため、平均値として算出。) 平成21年告示版は令和3年度、平成30年告示版は令和7年度の値を参照。

現行改訂時の考え方

以下の課題を踏まえ、H30改訂で科目構成を大幅に見直し

【指摘されていた課題】

- **教材の読み取りが指導の中心**になることが多く、主体的な表現等を重視した授業が十分に行われていない
- **話し合いや論述などの「話すこと・聞くこと」、「書くこと」の領域の学習が十分に行われていない**
- 古典の学習意欲が高まらない（日本人が大切にしてきた言語文化を積極的に享受し、社会や自分との関わりに活かしていく観点が弱い）

<各科目の趣旨>

- **現代の国語 (必修修)**
実社会における国語による諸活動に必要な資質・能力を育成する科目
- **言語文化 (必修修)**
上代から近現代に受け継がれてきた我が国の言語文化への理解を深める科目
- **論理国語 (選択履修)**
実社会において必要となる、論理的に書いたり批判的に読んだりする力の育成を重視した科目
- **文学国語 (選択履修)**
深く共感したり豊かに想像したりして、書いたり読んだりする力の育成を重視した科目
- **国語表現 (選択履修)**
実社会において必要となる、他者との多様な関わりの中で伝え合う力の育成を重視した科目
- **古典探究 (選択履修)**
古典を主体的に読み深めることを通して、伝統と文化の基盤としての古典の重要性を理解し、自分と自分を取り巻く社会にととの古典の意義や価値について探究する資質・能力を重視した科目

1. 現状と課題

(1) 履修の実態

- 前回改訂のねらいに基づく改善はある程度進捗
 - ✓ 「話すこと・聞くこと」「書くこと」の指導への教師の意識の変化
 - ✓ 教材に依存した指導、文学的文章の内容理解偏重の指導、古典文法に偏った指導の改善
- 一方、選択科目の単位数が多く（全て4単位）、時間割編成上の制約が大きい中、以下の実態も見受けられる。
 - ① 実社会におけるコミュニケーション能力の育成を図る「国語表現」が、大学入試に繋がらない等の理由で、進学希望者が多い高校で選択されにくい
 - ② 国公立理系では「論理国語」と「古典探究」のみの履修、私立理系では「論理国語」のみの履修にとどまる例が多く、バランスが悪い

科目	履修率
現代の国語	100%
言語文化	100%
論理国語	77%
文学国語	49%
国語表現	16%
古典探究	87%

教科書の需要数を元に、文部科学省で推計。（必修科目の「現代の国語」「言語文化」の需要数を履修率100%（差があるため平均をとる）として、他科目の履修率を推計）
R7年度の値を参照

(2) 顕在化している課題

- 前回改訂で問題となった課題の改善は継続する必要（引き続き重視すべき改善の視点）
 - ✓ 「読むこと」と「話すこと・聞くこと」、「書くこと」のバランス、多様な教材のバランス
 - ✓ 言語文化を積極的に享受し、生かしていく視点
- 前回改訂以降、急速に発展・普及した生成AIがもたらす変化を念頭に置くと以下のような点が課題。
 - ① 人間同士のリアルなコミュニケーションの重要性が高まる中、自らの考えを言葉にし、論理的かつ説得的に表現・対話する力の育成が不十分
 - ② 人間ならではの感性をはぐくみ、それらを的確に表現することの重要性が高まる中、理系希望者を中心に、文学を題材とした学びが相対的に不足（文理融合の視点）
- 小中高共通の課題として、以下の点についても踏まえる必要
 - ① 読書離れが進む中、読書を通して出合った語句や表現、ものの見方や考え方を、自分の中に蓄え次の学びにつなげていく力の育成
 - ② 短文でのやりとりが中心となるSNSなどに日常的に接する一方でまとまった文章を読む機会が不足している中で、文章を的確に理解するとともに、自分の考えを深めたり、表現を工夫したりする力の育成
 - ③ 日々の情報収集もSNSが中心となり、報道を含む多面的・多角的な情報収集が行われなくなっていることを踏まえたメディアリテラシーの強化
 - ④ 小・中学校の学びが基盤となって高校の学びへとつながっていくことを明確にすることによる、中学校と高校の学びの段差の解消

(参考) 第8回WGでの委員からの主なご意見等

- 選択科目が4単位と多く、履修できる科目に限界があることによって、「話すこと・聞くこと」の領域を学ばなかったり、文学作品を読まないといった学びの偏りが生じている状況を是正する必要がある。
- 履修率からも分かる通り、「国語表現」など表現系の科目が軽視されてしまっている状況を是正すべき。
- 自分の考えを言葉にして伝える力を重視すべき。
- 現行の科目は、各科目の趣旨が目標で明確に示されておらず、科目の特性が掴みにくい。科目の特性を目標でも示すべき。
- 古典を学ぶ意義が十分に理解されていない。また、「古典探究」は、教科書の内容も含め探究と言えるものになっていない実態がある。
- 「論理」とはこういったものを想定しているのか、明確にする必要がある。
- 読書離れが進んでいることも踏まえ、より多様な文章を読む機会を確保する方策について、国語科としてどう考えるか。
- 現行の必修履修科目「現代の国語」と「言語文化」の内容は、1年次で完結させるのではなく、2年次以降でも継続的に学んでいく必要がある。

2. 見直しの方向性（案）

- これからの社会においては、自らの考えを言葉にし、論理的かつ説得的に表現し対話する力や、豊かな感性・情緒により自らの思いや経験を効果的に表現する力、他者と協働して考えを深める力など、人間ならではの言語能力の育成の充実が必要。
- これらも踏まえ、現行の趣旨は維持しつつ、論理的思考力、感性・情緒の両面について、二項対立に陥らず、バランスよく統合的かつ効果的に育成する方向で検討する必要があるのではないか。
- このため、必修科目（「現代の国語」「言語文化」）は、科目構成を維持しつつ、更なる改善を図るとともに、以下の通り、選択科目の構成や単位数の見直しを行ってはどうか。
 - ① 選択科目（論理国語・文学国語・国語表現・古典探究）の中から、標準的な内容項目を抽出し、
 - ・主として論理的に考える力を育成し、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3領域を偏りなく学ぶ4単科目（現代の国語Ⅱ）
 - ・主として感性や情緒を豊かに育み、古典と近代以降の文章を、我が国の言語文化として学ぶ4単科目（言語文化Ⅱ）を大多数の生徒の履修を想定した選択科目として新設することで、領域の学びの偏りを解消し、多様な文章を読む機会を確保する。
 - ② その上で、上記「Ⅱ」科目の履修を前提に、より発展的に内容を焦点化して学ぶ選択科目群（論説と批評、対話と表現、文学と叙述、古典と文化）（2単位相当）を設定し、生徒の興味・関心に応じた選択を可能にする科目構成とする。
- 小・中学校における学びが基盤となり、高等学校への学びの接続が図られていることを明確にするため、必修科目について、〔思考力、判断力、表現力等〕の各領域の資質・能力を「話や文章の機能（仮称）」で整理する。また選択科目についても、必修科目との系統性を踏まえ、各科目の学びを明確にするため同様に整理する。
- ※ なお、論理的思考力の育成を重視する科目（現代の国語Ⅰ・Ⅱ、論説と批評）で扱う教材は、論説文や批評文などを中心とすることを明確にしつつ、文学作品等は科目の趣旨（論理的に思考・表現する等）に合致する取り扱いとなっているかどうかで判断する方向で今後詳細を検討してはどうか（現行の「現代の国語」と「論理国語」における「読むこと」の教材は、論説文や説明文等に限定）。
- ※ また、論理的思考力の育成を重視する科目（現代の国語Ⅰ・Ⅱ、論説と批評）における実用文の取り扱いについては、報道文や広告などを中心に引き続き扱うこととしつつ、それらを俯瞰的に論じた論説文や批評文を活用することも含めて、引き続き検討してはどうか。
- ※ 今般の教育課程の柔軟化の仕組み（単位の倍加、増単・減単をきめ細かく可能とする等）の下での高等学校国語科の諸科目の取り扱いについては、多様性の包摂の観点も含め、引き続き検討する必要。

3. 具体的な改善イメージ ※補足イメージ1～4参照

(1) 必履修科目

○現行の必履修科目の枠組みを維持しつつ、科目の目標に即し学習内容を明確化することで、指導の更なる充実を図ることとしてはどうか。

①目標の見直し

- 「現代の国語」においては、実社会で必要なコミュニケーション能力や論理的な思考力を中心に育成すること、「言語文化」においては、豊かな情意や感性、我が国の言語文化を継承・発展させる態度を中心に育成することを目標で明確に示すことで、科目を分けている趣旨を、育成する資質・能力の違いとして明示し、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の指導の充実、言語文化を継承する態度の育成等各科目での課題改善を引き続き図る。

②各科目で育成する資質・能力の焦点化

- 「話や文章の機能（仮称）」（「現代の国語」では「事実や知識の整理と理解」「考えや主張の理由付けと吟味」、 「言語文化」では「思いや経験の表出と想像」「伝統的な言語文化の継承と創造」）により、各領域の資質・能力を焦点化して整理することで、教材とする文章の種類と育成する資質・能力の関係を明確にし、各科目の趣旨に沿った学びを充実させる。

高等学校国語科の見直しの方向性（具体的な改善イメージ）

3. 具体的な改善イメージ（続き） ※補足イメージ1～3参照

（2）選択科目

○現行の選択科目の内容のうち標準的な内容を組み合わせ、必履修科目の内容を更に発展させて学ぶ科目と、現行の選択科目の発展的な内容を焦点化して学ぶ科目を設置してはどうか。

<標準科目>

①「現代の国語Ⅱ（仮称）」（4単位）標準

- ・現行の「論理国語」「国語表現」の標準的な内容を組み合わせ、「現代の国語」の内容を深化させて学ぶ科目として再整理する。「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3領域の資質・能力を「事実や知識の整理と理解」「考えや主張の理由付けと吟味」の「話や文章の機能（仮称）」に応じて働かせ、論理的に思考することや他者との対話を通し、主として、実社会で必要とされる国語による諸活動に必要な資質・能力を育成する。

②「言語文化Ⅱ（仮称）」（4単位）標準

- ・現行の「文学国語」「古典探究」の標準的な内容を組み合わせ、「言語文化」の内容を深化させて学ぶ科目として再整理する。「書くこと」「読むこと」の2領域の資質・能力を「思いや経験の表出と想像」「伝統的な言語文化の継承と創造」の「話や文章の機能（仮称）」に応じて働かせ、想像したり感じたりすること、作品を通じて先人と対話することなどを通し、主として、感性や情緒を育み言語文化を継承する態度を養う。

※「話や文章の機能（仮称）」については、第7回WGで提示した案の文言を使用しており、詳細については引き続き検討。

<発展科目>

③「論説と批評（仮称）」（2単位）発展

- ・現行の「論理国語」の発展的な内容を再整理し、「現代の国語Ⅱ」の「書くこと」「読むこと」を発展させた内容を学ぶ科目。主として、実社会や学術的な学習の基礎に関する事柄について、批判的に読んだり自らの考えを論述したりするなど、論理的に思考し表現する資質・能力を育成する。

④「対話と表現（仮称）」（2単位）発展

- ・現行の「国語表現」の発展的な内容を再整理し、「現代の国語Ⅱ」の「話すこと・聞くこと」「書くこと」を発展させた内容を学ぶ科目。主として、多様な他者との関わりの中で文章・口頭の双方において論理的・説得的に対話や表現をしたり、複数の媒体を通して他者との対話を重ね新たな価値を創出したりするなど、多様な他者と多角的なコミュニケーションを図る資質・能力を高める。

⑤「文学と叙述（仮称）」（2単位）発展

- ・現行の「文学国語」の発展的な内容を再整理し、「言語文化Ⅱ」の「書くこと」「読むこと」を発展させた内容を学ぶ科目。主として、文学作品について評価したり、その解釈の多様性について考察したり、独創的な表現を工夫したりするなど、幅広い知識や教養を身に付け、感性や情緒を豊かにする。

⑥「古典と文化（仮称）」（2単位）発展

- ・現行の「古典探究」の発展的な内容を再整理し、「言語文化Ⅱ」の「読むこと」を発展させた内容を学ぶ科目。主として古典を主体的に読み進めたり、我が国の伝統と文化の基盤として古典を学び現代的な価値について考えたりするなど、我が国の伝統的な言語文化を継承し、自分なりに価値付ける資質・能力を育成する。

<発展科目>の科目名称（案）の考え方について

- 「論説と批評」…主に論説文を批判的に読んだり、それらを批評したり論述したりする等の学習内容を端的に表す名称
 - 「対話と表現」…対話によって考えを形成したり、自分の考えを工夫して表現したりすること等の学習内容を端的に表す名称
 - 「文学と叙述」…主に文学作品を読んで解釈の多様性について考察したり、自分の体験や想像を叙述したりする等の学習内容を端的に表す名称
 - 「古典と文化」…主に古典作品を読むことを通して、解釈を深めたり我が国の文化の継承と創造について考えたりする等の学習内容を端的に表す名称
- ※ <標準科目>については、現行の枠組みを維持して充実を図ることとした必履修科目（改訂案）との系統性を重視しその内容の深化を表すため、必履修科目の名称に「Ⅱ」を付した名称としている。

3. 具体的な改善イメージ（続き） ※補足イメージ1～4参照

（3）教材の扱い

- 多様な他者との協働が重要となる社会を念頭に置き、豊かな論理的思考力を育成するためには、多様な教材を活用して論理的に読み解き、根拠をもって説明・批評する学習を一層充実させる必要。
 - その際、論理的思考力、感性・情緒の両面についてバランスよく統合的かつ効果的に育成するため、例えば、文学作品を読むことを通して生まれる感情や想像を他者に伝わるように言語化したり、充実した言語生活に繋げたりすることも重要。
 - このような観点も踏まえつつ、論理的思考力の育成を重視する科目（現代の国語Ⅰ・Ⅱ、論説と批評）で扱う教材は、論説文や批評文などを中心としつつ、文学作品等は科目の趣旨（論理的に表現する等）に合致するかどうかで判断することとしてはどうか。（感性や情緒の育成を重視する科目も同様に整理）
- ※なお、実用文については、「話や文章の機能（仮称）」に即して指導に適切な文章と判断されるものを中心に扱うことを明記する方向で検討。

科目構成の見直しイメージ (全体像)

【現行】

【見直し案】

主に論理的思考力やコミュニケーション能力の育成

主に感性・情緒や古典の意義や価値を考える力の育成

現代の国語(2単位) 必修

読むこと 書くこと

話すこと・聞くこと

論理国語(4単位) 履修77%

読むこと 書くこと

国語表現(4単位) 履修16%

話すこと・聞くこと 書くこと

言語文化(2単位) 必修

読むこと 書くこと

文学国語(4単位) 履修49%

読むこと 書くこと

古典探究(4単位) 履修87%

読むこと

現代の国語 I (仮称) (2単位) 必修

(現代の国語) 読むこと (現代の国語) 書くこと

(現代の国語) 話すこと・聞くこと

現代の国語 II (仮称) (4単位) 選択・標準

(論理国語(標準)) 読むこと (論理国語(標準)) 書くこと (国語表現(標準)) 話すこと・聞くこと

論説と批評 (仮称) (2単位) 選択・発展

(論理国語(発展)) 読むこと (論理国語(発展)) 書くこと

対話と表現 (仮称) (2単位) 選択・発展

(国語表現(発展)) 話すこと・聞くこと (国語表現(発展)) 書くこと

言語文化 I (仮称) (2単位) 必修

(言語文化) 読むこと (言語文化) 書くこと

言語文化 II (仮称) (4単位) 選択・標準

(文学国語(標準)) 読むこと (文学国語(標準)) 書くこと (古典探究(標準)) 読むこと

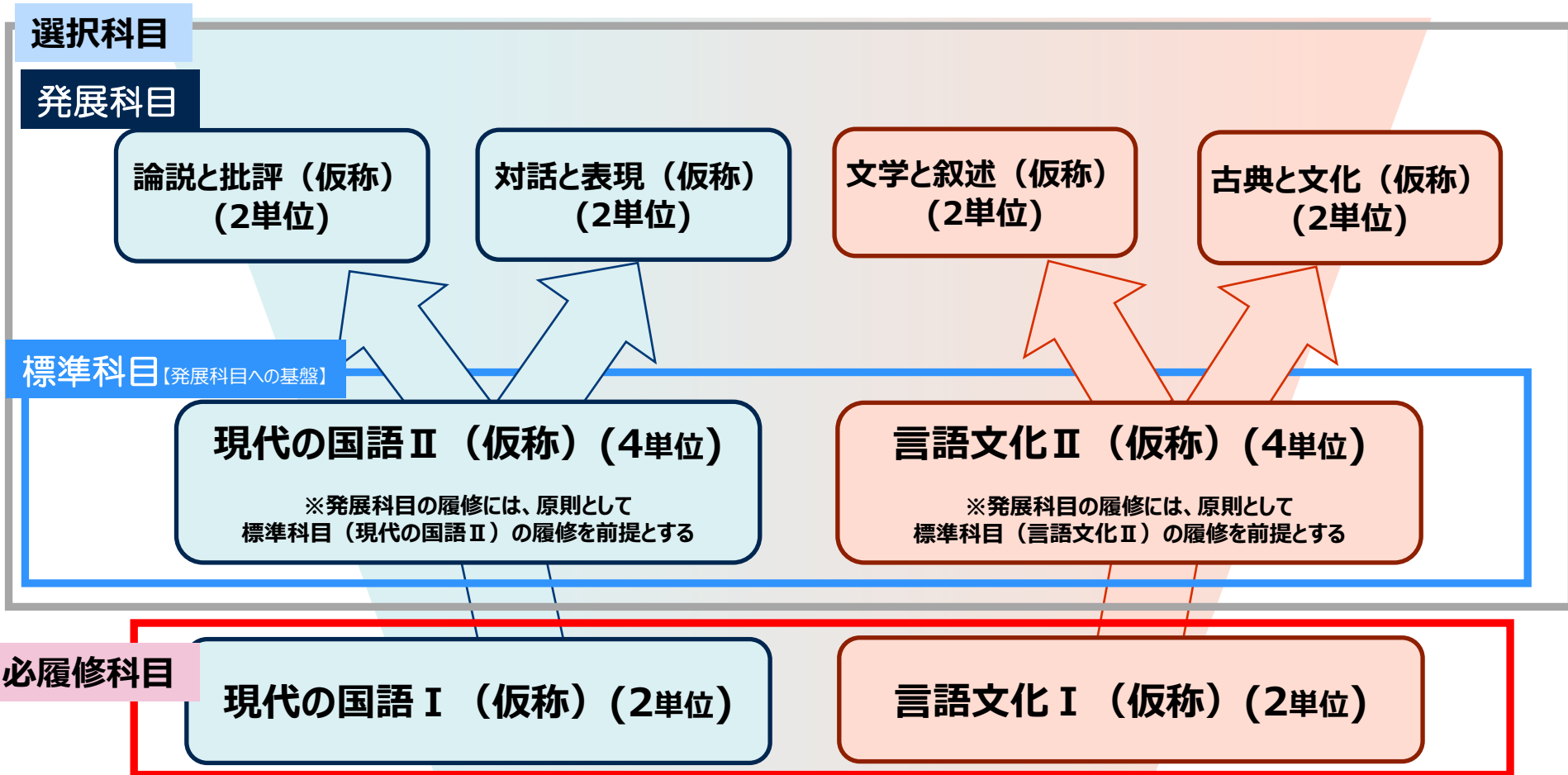
文学と叙述 (仮称) (2単位) 選択・発展

(文学国語(発展)) 読むこと (文学国語(発展)) 書くこと

古典と文化 (仮称) (2単位) 選択・発展

(古典探究(発展)) 読むこと

「主に論理的思考力やコミュニケーション能力の育成」は、論理的に考える力、他者との関わりの中で伝え合う力の育成、
 「主に感性・情緒や古典の意義や価値を考える力の育成」は、深く共感したり豊かに想像したりする力、先人のものの見
 方、感じ方、考え方との関わりの中で古典の意義や価値について考える力を中心とした科目群
 ※ 現行の「%」は教科書の需要数を基に推計した履修率



小中学校での国語科の学び

※履修に関する基本的考え方について、以下のように考えることとしてはどうか。

- 選択科目は原則として必修科目の2科目を履修した後に履修させる。ただし、必修科目を2年以上の連続する年次にわたって分割履修する場合は、2年次目において、選択科目を同時に履修することも可能とする。
- 選択科目の発展科目は、標準科目において育成される資質・能力を基盤として特定の領域をより発展的に扱うものであり、原則として発展科目は同系統の標準科目を履修した後に履修させることとする。（例：「対話と表現」または「論説と批評」の履修は、「現代の国語 II」の履修が前提となる。）

※教育課程の柔軟化に関する基本的考え方について、以下のように考えることとしてはどうか。

- 必修科目、選択科目について、また、選択科目の標準科目及び発展科目については、生徒の実態に応じて柔軟に組み換えることができる。その場合においても、組み換え後の科目の内容については、当該科目において育成することとされている資質・能力及び内容の系統性が確保され、学習が段階的に深化するよう編成すること。

科目	現行科目との関係	単位数	科目目標の主要要素（イメージ）
現代の国語Ⅰ（仮称）	現代の国語	2単位	・実社会に必要な国語の知識・技能の育成 ・主として、論理的に考える力、他者との関わりの中で伝え合う力の育成
言語文化Ⅰ（仮称）	言語文化	2単位	・言語文化にかかわる国語の知識・技能の育成と、我が国の言語文化への理解の深化 ・主として、深く共感したり豊かに想像したりする力、先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で古典の意義や価値について考える力の育成
現代の国語Ⅱ（仮称）	論理国語（標準）＋ 国語表現（標準）	4単位	・実社会に必要な国語の知識・技能の育成 ・主として、論理的に考える力、他者との関わりの中で伝え合う力の育成
言語文化Ⅱ（仮称）	文学国語（標準）＋ 古典探究（標準）	4単位	・言語文化にかかわる国語の知識・技能の育成と、我が国の言語文化への理解の深化 ・主として、深く共感したり豊かに想像したりする力、先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で古典の意義や価値について考える力の育成
論説と批評（仮称）	論理国語（発展）	2単位	・実社会に必要な国語の知識・技能の育成 ・主として、論理的に考える力の育成
対話と表現（仮称）	国語表現（発展）	2単位	・実社会に必要な国語の知識・技能の育成 ・主として、他者との関わりの中で伝え合う力の育成
文学と叙述（仮称）	文学国語（発展）	2単位	・言語文化にかかわる国語の知識・技能の育成と、我が国の言語文化への理解の深化 ・主として、深く共感したり豊かに想像したりする力の育成
古典と文化（仮称）	古典探究（発展）	2単位	・言語文化にかかわる国語の知識・技能の育成と、我が国の言語文化への理解の深化 ・主として、先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で古典の意義や価値について考える力の育成

 : 必修科目
 : 選択科目（標準）
 （枠なし） : 選択科目（発展）

※（標準）：当該科目の標準的な内容
 （発展）：当該科目の発展的な内容

		現代の国語 I	言語文化 I
目標		<p>国語で理解し、考え、表現する資質・能力について、話すこと・聞くこと、書くこと、読むことを通して、次のとおり育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実社会に必要な国語の知識や技能を身につけ、適切に使えるようにする。 ・国語で論理的に考える力を伸ばし、実社会における他者との関わりの中で、互いの立場や考えを尊重しながら伝え合う力を高める。 ・①考えたり感じたりしたことを自ら進んで表現し、伝え合う過程を吟味しながら、学びの質を高めようとする態度を養う。②言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、国語を尊重する態度を養う。 	<p>我が国の言語文化に関わる国語の知識や技能を身につけ適切に使うとともに、我が国の言語文化を深く理解できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語で深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で古典の意義や価値について考える力を育成する。 ・①考えたり感じたりしたことを自ら進んで表現し、伝え合う過程を吟味しながら、学びの質を高めようとする態度を養う。②言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、国語を尊重する態度を養う。
話すこと・聞くこと			
話や文章の機能 (仮称)	事実や知識の整理と理解	・実社会の中から題材を決め、相手の理解が得られるよう表現を工夫して話す。(話すこと)	
	考えや主張の理由付けと吟味	・論理の展開を予想しながら聞き、聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりする。(聞くこと)	
	協働による深化や合意	・相手の反応を予想して、論理の展開や表現の仕方を工夫して話す。(話すこと)	
書くこと			
話や文章の機能 (仮称)	事実や知識の整理と理解	・論理の展開や情報の分量などを考えて、読み手の理解が得られる文章を書く。	・文章の構成や展開を工夫して、自分の体験を効果的に伝える文章を書く。
	考えや主張の理由付けと吟味	・根拠の示し方や説明の仕方を工夫し、自分の意見を述べる文章を書く。	
	思いや経験の表出と想像		
読むこと			
話や文章の機能 (仮称)	事実や知識の整理と理解	・説明や解説をする文章を読み、叙述をもとに要旨を把握する。	・物語作品を読み、他の作品との関係を踏まえ、内容の解釈を深める。 ・読む対象とした古典作品の内容や解釈を自分と関係づけて、我が国の言語文化について自分の考えをもつ。
	考えや主張の理由付けと吟味	・主張が述べられた文章を読み、文章の構成や論理の展開について評価する。	
	思いや経験の表出と想像		
	伝統的な言語文化の継承と創造		

※表中の「目標」及び「話や文章の機能（仮称）」の内容の文言については、**現行の必修科目の指導事項をもとに想定している現時点でのイメージ**であり、詳細は別途検討。

※表中の「話や文章の機能（仮称）」については、**第7回WGで提示した案の文言を使用しており**、詳細については引き続き検討。

參考資料

高等学校国語科における教科目標の変遷

昭和35年改訂(告示) 目標

- 1 生活に必要な国語の能力を高め、言語文化に対する理解を深め、思考力・批判力を伸ばし、心情を豊かにして、言語生活の向上を図る。
- 2 経験を広め、知識を求め、教養を高めるために、また、思想や感情を人に伝えるために、目的や場に応じて正しく的確に理解し表現する態度や技能を養う。
- 3 ことばのはたらきを理解させ、国語に関する知識を高め、国語に関する関心や自覚を深めて、国語を尊重し、その発展に寄与する態度や習慣を身につけさせる。

昭和45年改訂(告示) 目標

生活に必要な国語の能力を高め、国語を尊重する態度を育てる。

このため、

- 1 国語によつて的確に理解し表現する能力と態度を養う。
- 2 国語による理解と表現を通して、思考力・批判力を伸ばし、心情を豊かにする。
- 3 国語による伝達を効果的にして社会生活を高める能力を伸ばし態度を養う。
- 4 言語文化を享受し創造するための基礎的な能力を伸ばし態度を養う。
- 5 国語に対する認識を深め、言語感覚を豊かにし、国語を愛護してその向上を図る態度を養う。

昭和53年改訂(告示) 目標

国語を的確に理解し適切に表現する能力を身につけさせるとともに、言語文化に対する関心を深め、言語感覚を豊かにし、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

平成元年改訂(告示) 目標

国語を的確に理解し適切に表現する能力を身に付けさせるとともに、思考力を伸ばし心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

平成11年改訂(告示) 目標

国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力を伸ばし心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

平成21年改訂(告示) 目標

国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

平成30年改訂(告示) 目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。
- (3) 言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

高等学校国語科における科目構成等の変遷

学習指導要領	領域構成	科目（◎：必履修、○：選択必履修）	
昭和35年改訂（告示）	A（聞くこと、話すこと）、（読むこと）、（書くこと） B ことばに関する事項	◎現代国語 ○古典乙Ⅰ	○古典甲 古典乙Ⅱ
昭和45年改訂（告示）	A 聞くこと、話すこと B 読むこと C 書くこと ことばに関する事項	◎現代国語 古典Ⅰ乙	◎古典Ⅰ甲 古典Ⅱ
昭和53年改訂（告示）	A 表現 B 理解 〔言語事項〕	◎国語Ⅰ 国語表現 古典	国語Ⅱ 現代文
平成元年改訂（告示）	A 表現 B 理解 〔言語事項〕	◎国語Ⅰ 国語表現 現代語 古典Ⅱ	国語Ⅱ 現代文 古典Ⅰ 古典講読
平成11年改訂（告示）	A 話すこと・聞くこと B 書くこと C 読むこと 〔言語事項〕	○国語表現Ⅰ ○国語総合 古典	国語表現Ⅱ 現代文 古典講読
平成21年改訂（告示）	A 話すこと・聞くこと B 書くこと C 読むこと 〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕	◎国語総合 現代文A 古典A	国語表現 現代文B 古典B
平成30年改訂（告示）	A 話すこと・聞くこと B 書くこと C 読むこと 〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕	◎現代の国語 論理国語 国語表現	◎言語文化 文学国語 古典探究

現行の高等学校国語科の科目履修状況（推計）

科目	履修率
現代の国語	100%
言語文化	100%
論理国語	77%
文学国語	49%
国語表現	16%
古典探究	87%

教科書の需要数を元に、文部科学省で推計（必履修科目の「現代の国語」「言語文化」の需要数を履修率100%（差があるため平均をとる）として、他科目の履修率を推計）R7年度の値を参照

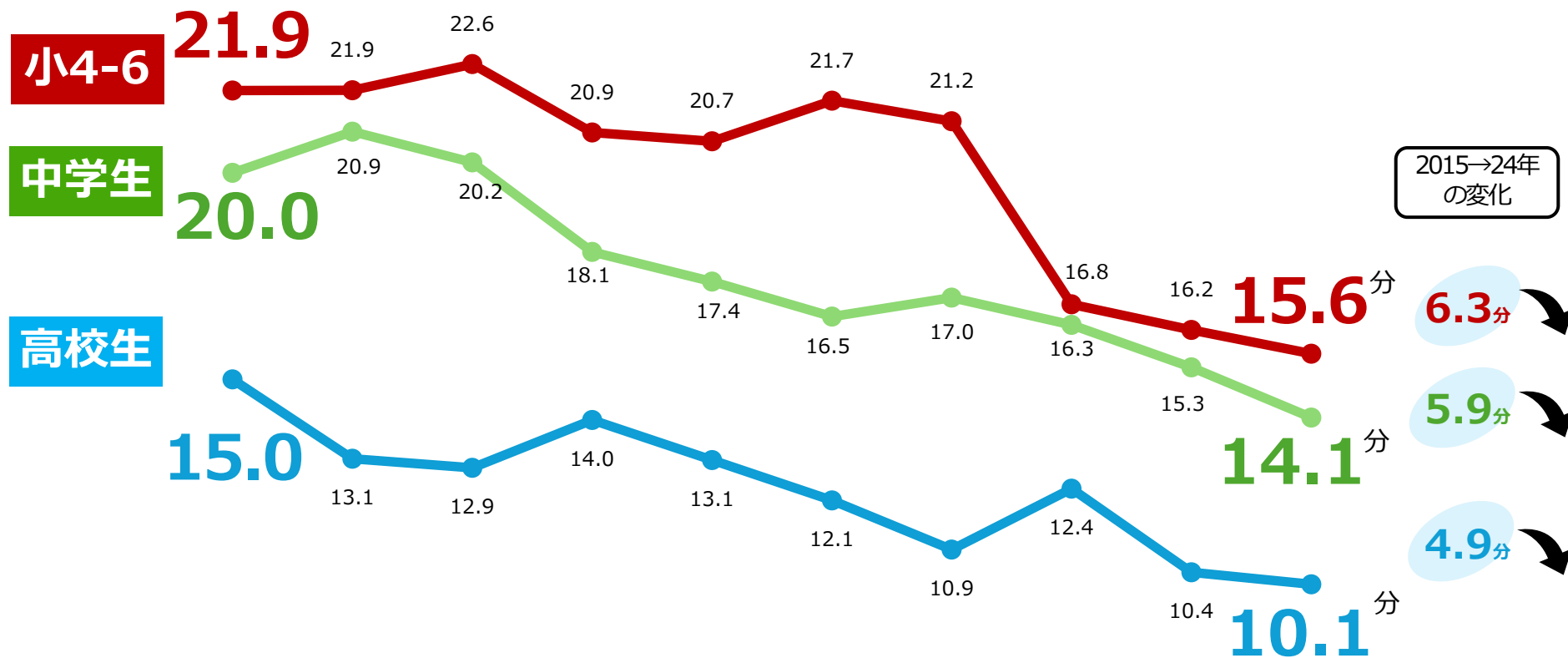
令和7年度公立高等学校における教育課程の編成・実施状況調査の結果

		普通科等				専門学科				総合学科
		1年次	2年次	3年次	単位制	1年次	2年次	3年次	単位制	
国語	現代の国語	95.2%	1.2%	0.9%	11.7%	83.7%	16.3%	3.6%	5.2%	100.0%
	言語文化	94.9%	3.0%	1.8%	12.0%	80.1%	21.2%	2.9%	5.2%	100.0%
	論理国語	0.0%	81.4%	85.0%	11.1%	0.0%	42.7%	48.9%	2.9%	83.6%
	文学国語	0.0%	53.8%	56.8%	8.1%	0.0%	30.6%	35.5%	2.0%	69.0%
	国語表現	0.0%	9.0%	23.7%	4.2%	0.3%	9.4%	26.1%	1.0%	49.1%
	古典探究	0.3%	79.3%	77.5%	9.6%	0.0%	22.8%	25.1%	2.0%	69.6%

現行の高等学校国語科 科目の目標

	科目名	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
必履修科目	現代の国語	(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
	言語文化	(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
選択科目	論理国語	(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	(2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
	文学国語	(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	(2) 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
	国語表現	(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、実社会における他者との多様な関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
	古典探究	(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通じた先人のものの見方、感じ方、考え方の関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

いずれの学校段階でも読書時間は減少傾向

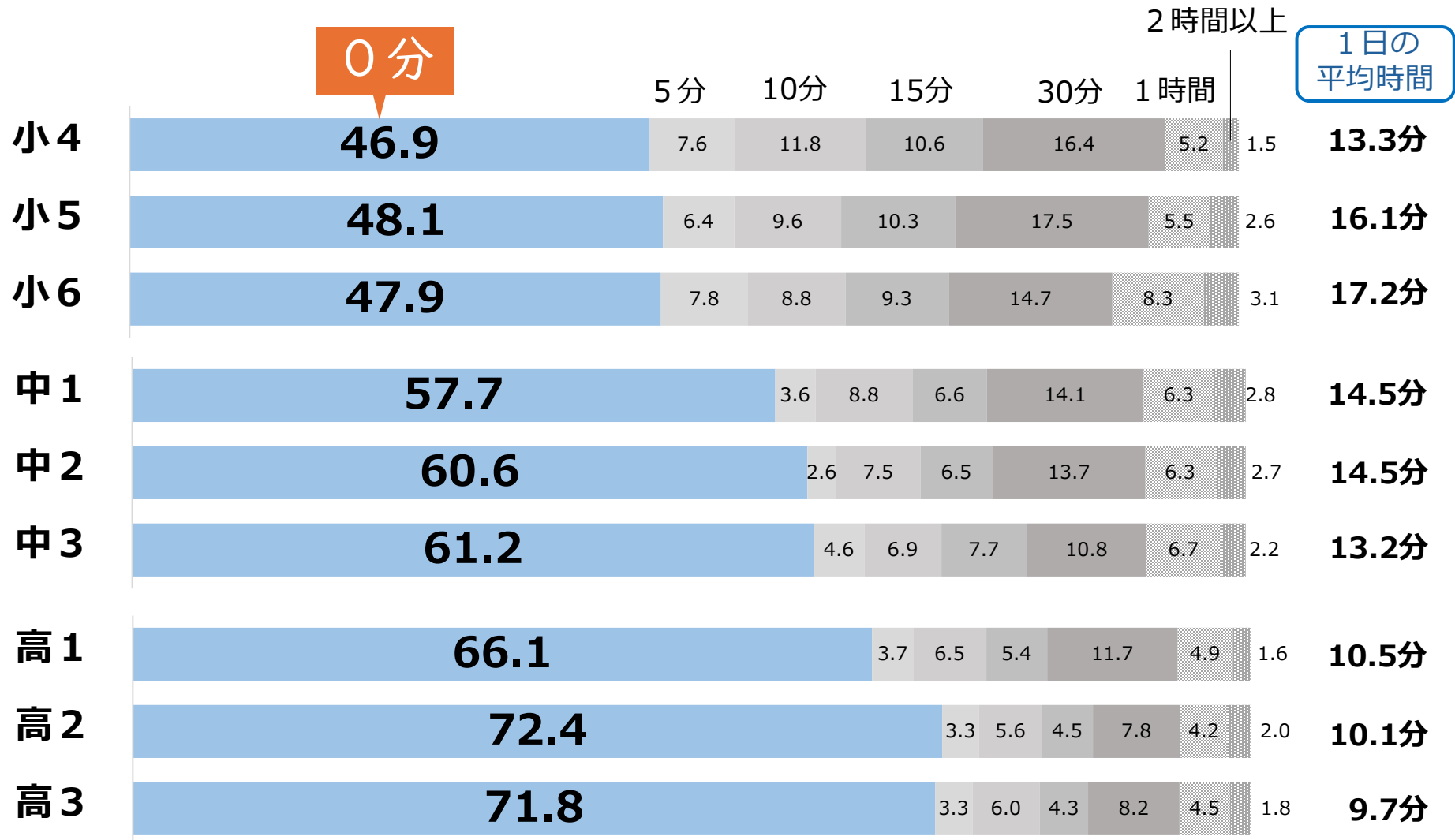


(出典) 東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査2015-2024」

* 「あなたはふだん(学校がある日)、次のことを、1日にどれくらいの時間やっていますか」という設問の「本を読む」に対する回答(%)。2023年以降は「本を読む(電子書籍を含む)」。

* 「しない」は0分、「5分」から「4時間」はそれぞれ、5分から240分、「4時間以上」は300分を割り当てて平均値を算出した。

1日の読書時間が0分、半数以上



(出典) 東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査2024」

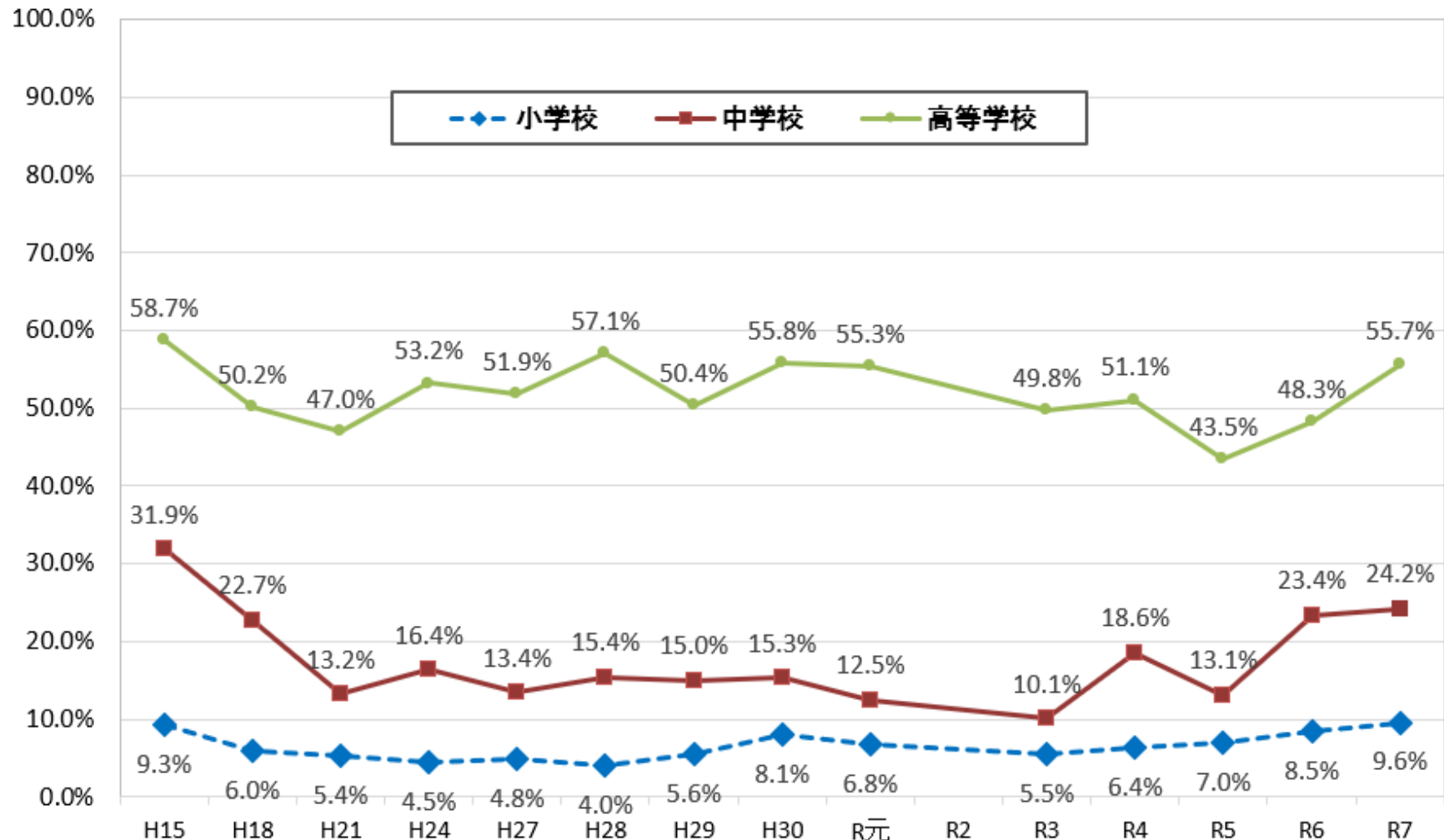
* 「あなたはふだん(学校がある日)、次のことを、1日にどれくらいの時間やっていますか」という設問の「本を読む」に対する回答(%)。

* 「2時間以上」は、「2時間」「3時間」「4時間」「4時間以上」の合計。* 平均時間は「しない」を0分として算出。

いずれの学校段階でも不読率が上昇傾向

不読率（0冊回答者）の推移

※「不読率」：1か月に1冊も本を読まなかった者の割合



出典：学校読書調査（公益社団法人全国学校図書館協議会・株式会社毎日新聞社）

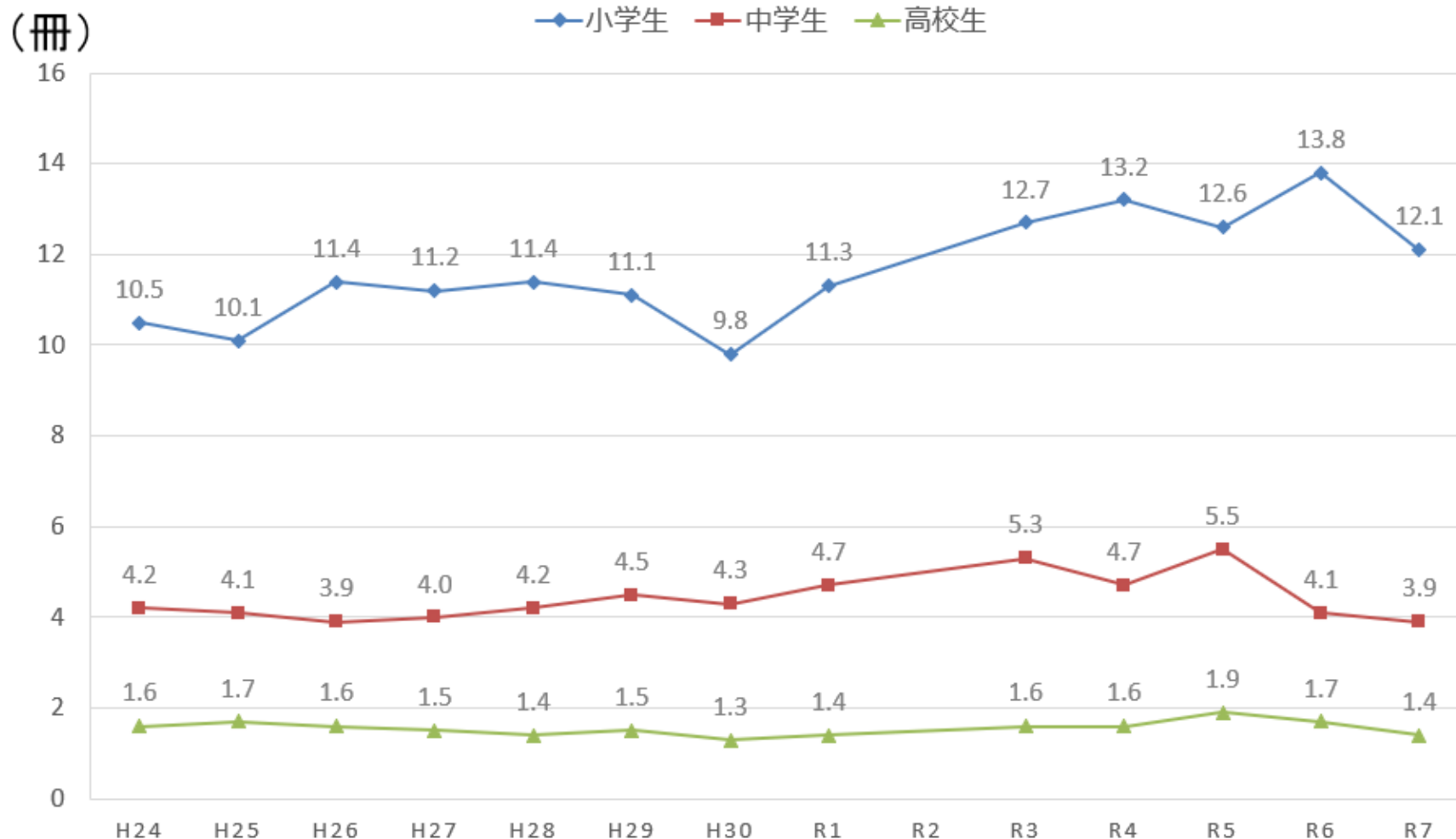
※令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、調査未実施

子供の読書習慣に格差が生じている可能性

※直近の12年間で、1人当たりの読書冊数（冊／月）は、ほぼ横ばい。

一方、不読率は上昇していることから、子供の読書習慣に格差が生じている可能性が考えられる。

1人当たり読書冊数（冊／月）



出典：学校読書調査（公益社団法人全国学校図書館協議会・株式会社毎日新聞社）

※令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、調査未実施

「自分の考え」を書くことが苦手

<R3~R5 全国学力・学習状況調査>

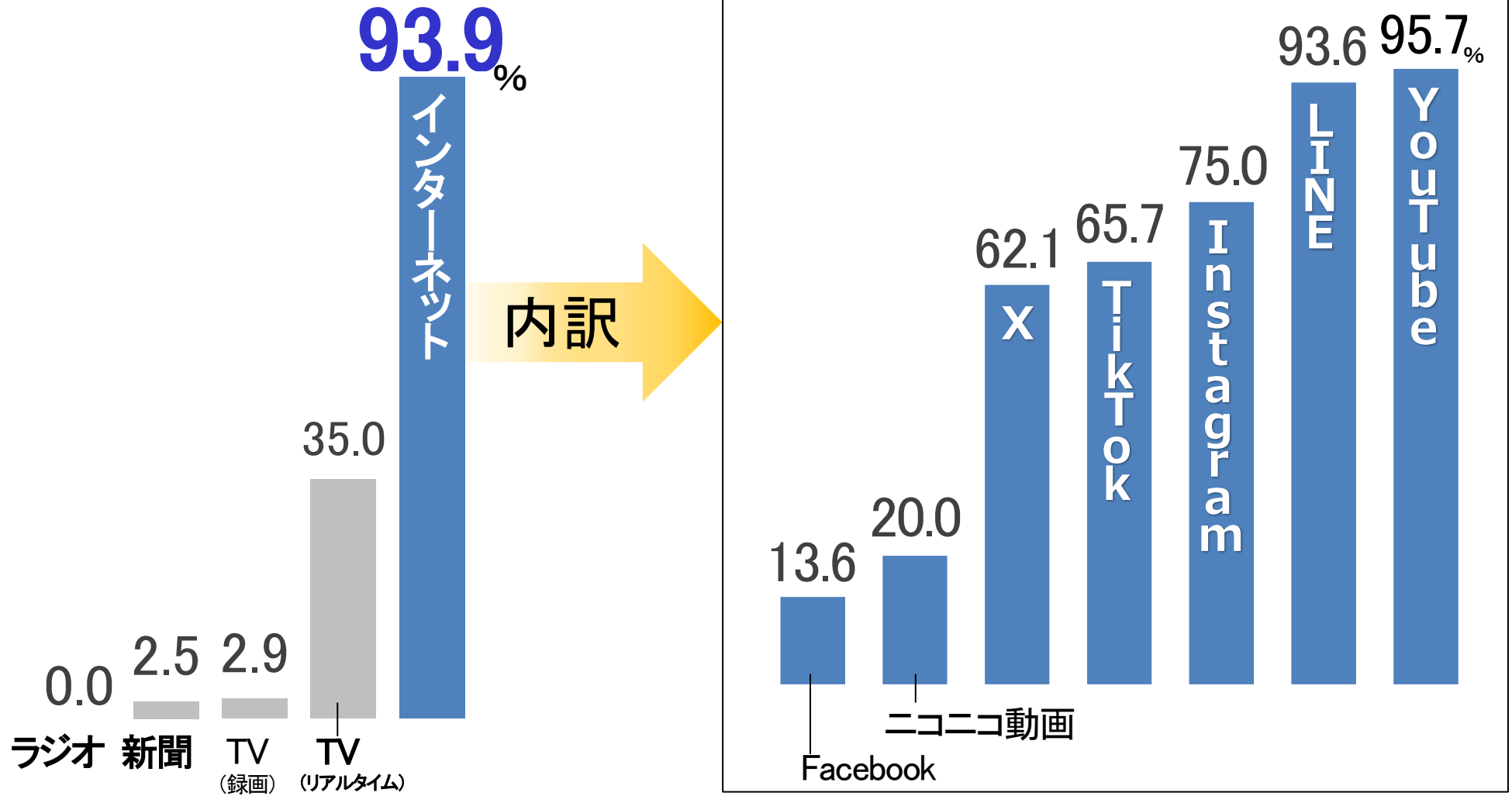
小学校・国語

問題の概要	出題の趣旨	正答率	無回答率
「ごみ拾い」か「花植え」かのどちらかを選んで、 <input type="text"/> でどのように話すかを書く（R4）	互いの立場や意図を明確にしなが 計画的に話し合い、 自分の考え をまとめる	47.8%	3.0%
【川村さんの文章】の空欄に学校の米作りの問題点と解決方法を書く（R5）	図表やグラフなどを用いて、 自分の考え が伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる	26.8%	7.0%
資料を読み、運動と食事の両方について分かったことをもとに、自分ができそうなことをまとめて書く（R5）	文章を読んで理解したことに基 づいて、 自分の考え をまとめることができるかどうかをみる	56.4%	8.4%

中学校・国語

問題の概要	出題の趣旨	正答率	無回答率
参加者の誰がどのようなことについて発言するとよいかと、そのように 考えた理由 を書く（R3）	話し合いの話題や方向を捉えて、 話す内容を考える	57.5%	3.3%
農林水産省のウェブページにある資料の一部から必要な情報を引用し、意見文の下書きにスマート農業の効果を書き加える（R4）	自分の考え が伝わる文章になるように、 根拠を明確にして書く	46.5%	8.8%

10代のメディア利用状況

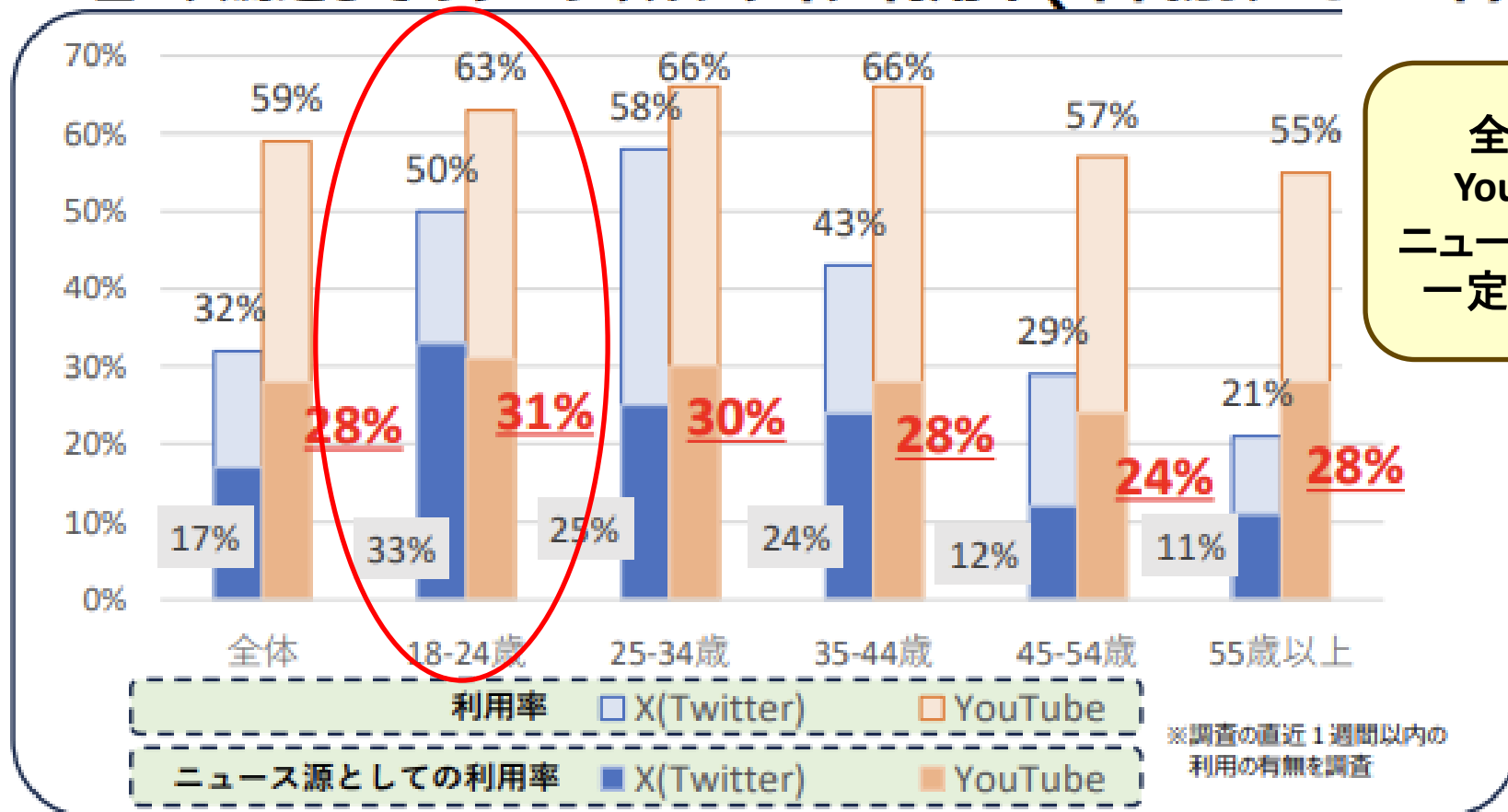


【出典】総務省情報通信政策研究所「令和6年度 情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査報告書」図1-1-1-7、表5-1-1を基に作成。

* 本調査は、全国の13～79歳の男女1,800人を対象に実施（令和6年12月2日（月）～8日（日））。本資料では、そのうち10代のデータのみを抜粋している。* 左図は、図1-1-1-7を基に主なメディアの利用状況（平日）を示したもの（n=280）。* 数値は、行為者率（調査日に利用した人の割合）である。* 右図は、表5-1-1を基にインターネット利用の内訳のうち、主なソーシャルメディア系サービス及び動画投稿・共有サービスの利用状況を示したもの（n=140）。* 報告書では、「X」は「X（旧Twitter）」と表記されている。* 本資料は、上記調査結果を基に編集・加工して作成している。

18-24歳は、X(Twitter)、YouTube利用者の約半数が ニュース源として利用

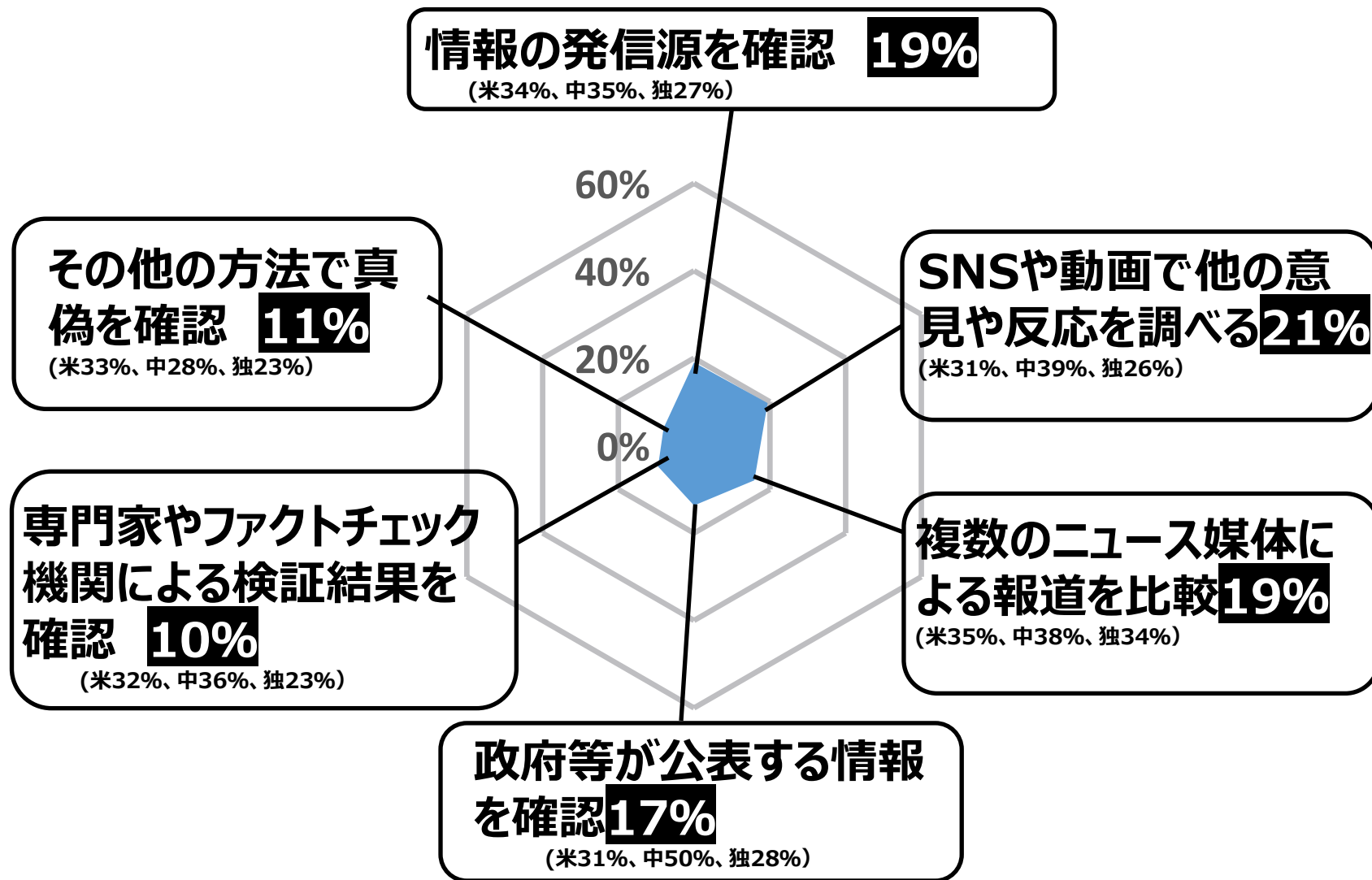
ニュース源としてのソーシャルメディア利用率(年代別、2024年)



全世代で
YouTubeが
ニュース源として
一定の存在感

(出典) Reuters Institute for the Study of Journalism「Digital News Report」(2024) を基に作成

オンライン情報の信頼性を確認する割合 他国と比べ圧倒的に低い



【出典】

「国内外における最新の情報通信技術の研究開発及びデジタル活用の動向に関する調査研究の請負成果報告書」(2025(令和7)年3月 総務省情報流通行政局情報通信政策課情報通信経済室)

※アンケート対象：各対象国の居住者及び、20代から60代の男女を対象 日本N=1030 米国、中国、ドイツ N=520

※オンライン情報の信頼性の確認方法：「あなたはオンライン上で最新のニュースを知りたい時に、どのように情報の信頼性を確かめますか」の問いに「ほぼ全てのニュースについて行う」あるいは「よく行う」と回答した割合

デジタルの負の側面も

① 子どもたちは常時ネット接続

● ネット利用時間の1日平均 (※1)



● 子供専用のスマホ保有率 (※2)

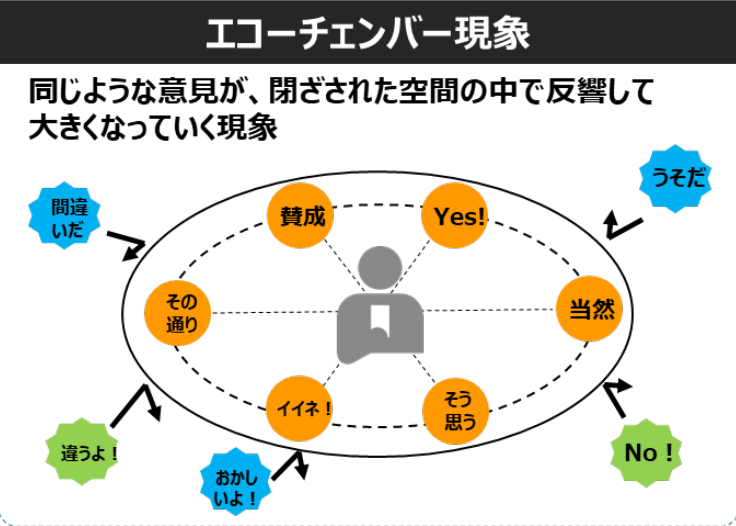
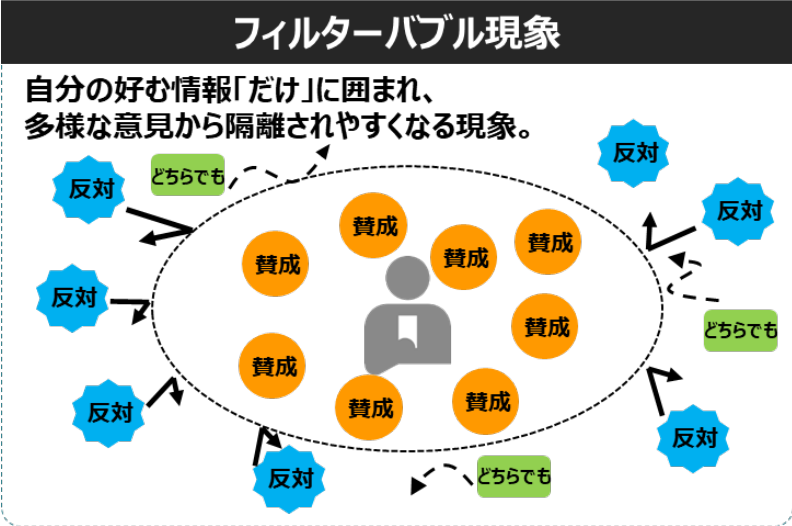


【出典】
こども家庭庁 令和7年度 青少年のインターネット利用環境実態調査調査結果。
(※1) ネットを利用すると回答した青少年の平均利用時間は、前年度と比べ約25分増加し、約5時間27分。目的ごとの平均利用時間は趣味・娯楽が最も多く、約3時間1分
(※2) 「小学生」の調査対象は、10歳以上

② 多様な情報から遮断されるリスク

● 検索結果・SNS、表示情報のパーソナライズ

✓ 日本は「知っている」：44.8% 他国は60%～70% 【出典】情報通信白書令和7年度版



【出典】初等中等教育段階における生成AIの利用に関する暫定的なガイドラインVer.1.0